

2021年2月28日

個人投資家の皆様へ

日産化学(株)(証券コード:4021)

会社説明会資料

説明者 日産化学(株)
取締役副社長CFO 宮崎純一

ディスクロージャー
2020年度 優良企業



SAAJ 公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan



Nissan Chemical
CORPORATION

**Institutional
Investor**

2020 ALL-JAPAN EXECUTIVE TEAM

MOST HONORED COMPANY

NISSAN CHEMICAL CORPORATION

会社概要①

1. 創業：1887年(明治20年)
高峰讓吉、渋沢栄一、益田孝らの明治の先覚者により、我が国初の化学肥料製造会社である東京人造肥料会社として創業、その後様々な化学分野に展開
2. 普通株式/資本金：
145百万株/18,942百万円 (2021年2月現在) 東証1部上場
3. 従業員数：連結2,640人 単体1,890人 (2020年3月現在)
4. 主な事業内容：
 - (1)機能性材料事業 (ディスプレイ材料、半導体材料、無機コロイド等)
 - (2)農業化学品事業 (農薬、動物用医薬品等)
 - (3)医薬品事業 (自社創薬、原薬・中間体製造/プロセス研究/GE原薬供給等)
 - (4)化学品事業 (アンモニア・硫酸系基礎化学品、ファインケミカル等)

会社概要②

5. 国内生産拠点:

富山工場、小野田工場、袖ヶ浦工場、埼玉工場、名古屋工場

6. 国内研究所:

物質科学研究所(千葉県船橋市)、生物科学研究所(埼玉県白岡市)

材料科学研究所(千葉県船橋市、千葉県袖ヶ浦市、富山県富山市)

7. 海外拠点(連結子会社):

Nissan Chemical Europe (仏、リヨン)

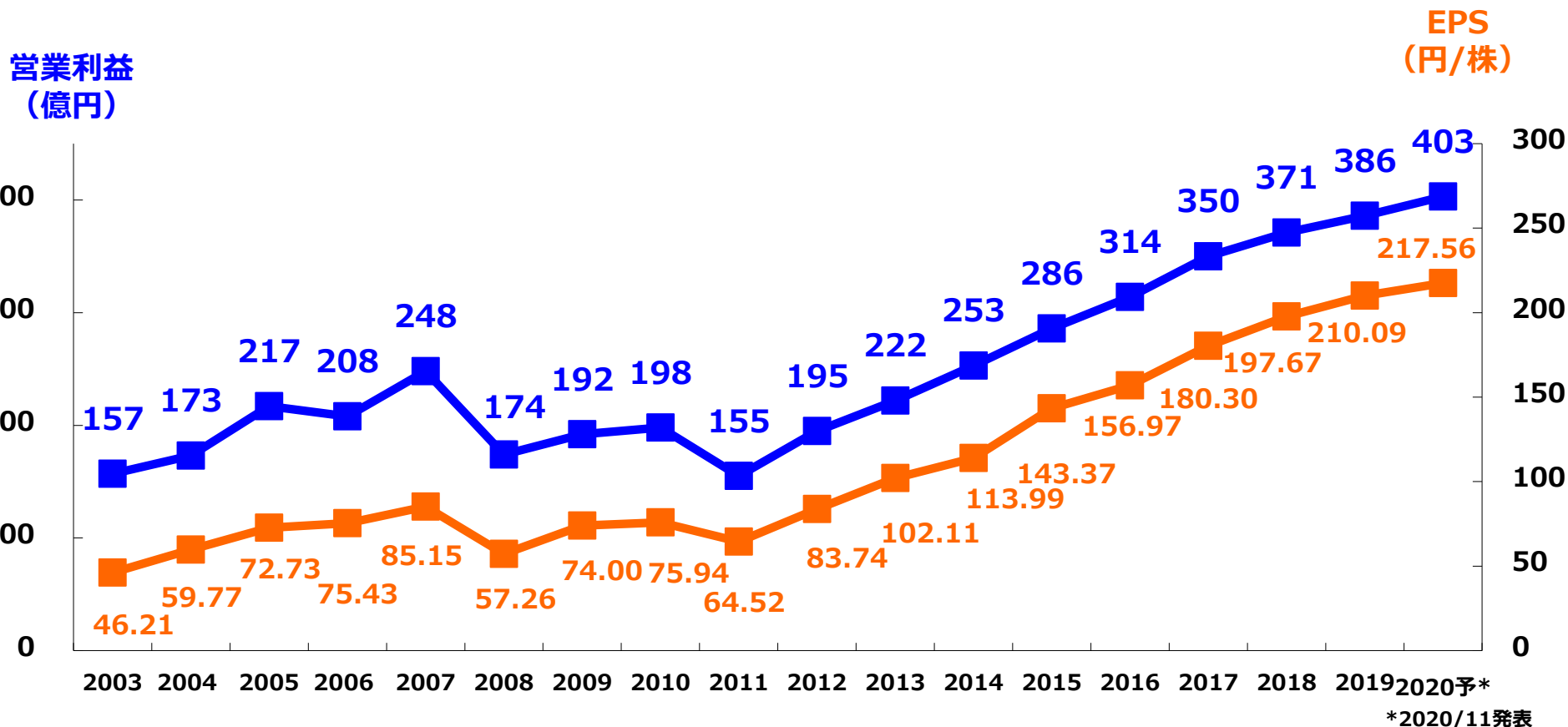
NCK Co.,Ltd(韓国、平沢)

Nissan Chemical America Corporation (米、ヒューストン)

長期業績推移① 営業利益・EPS

2011年度以降、一貫して上昇

※EPS：一株当たり当期純利益(Earnings Per Share)(=当期純利益÷発行済み株式数)



※本資料における「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す

※本資料における「2020予想」は、2020年11月12日発表ベース

長期業績推移② 主要数値

売上高（5年連続）、営業利益・経常利益（6年連続）、当期純利益（7年連続）
それぞれ過去最高を更新、2020年度もコロナ禍でも過去最高を更新する予想

(億円)

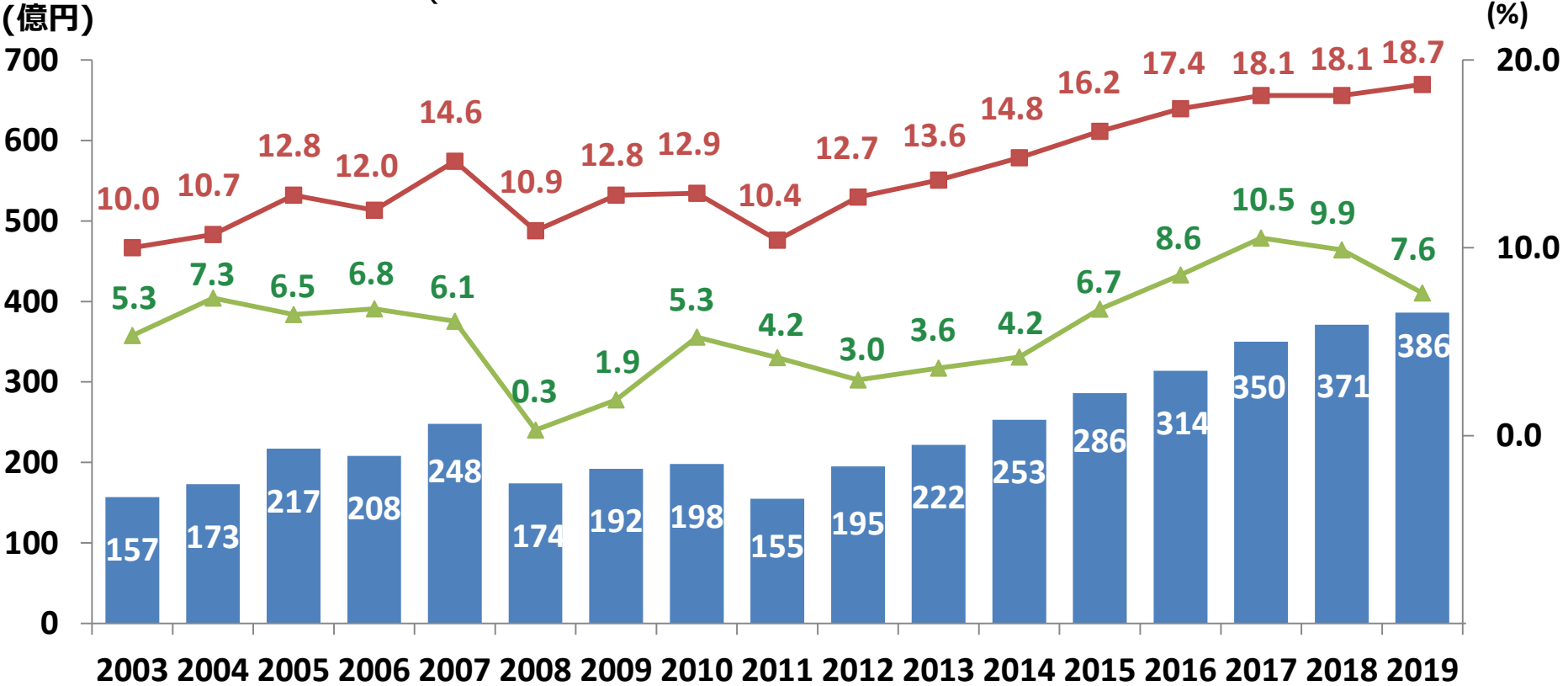
	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020予*
売上高	1,559	1,614	1,691	1,744	1,692	1,602	1,490	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,095
営業利益	157	173	217	208	248	174	192	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	403
経常利益	146	174	213	212	244	169	192	194	159	205	237	264	295	317	362	391	400	411
当期純利益	87	113	137	140	155	101	128	130	110	139	167	182	224	240	271	294	308	314
売上高営業利益率	10.0%	10.7%	12.8%	12.0%	14.6%	10.9%	12.8%	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	19.2%
ROE	13.4%	15.2%	16.1%	14.7%	15.6%	10.3%	12.6%	11.9%	9.5%	11.4%	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	16.6%
EPS (円/株)	46.21	59.77	72.73	75.43	85.15	57.26	74.00	75.94	64.52	83.74	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	217.56
配当 (円/株)	11	11	15	20	20	22	24	24	24	26	30	36	44	52	68	82	90	98
配当性向	23.8%	18.4%	20.6%	26.5%	23.5%	38.4%	32.4%	31.6%	37.2%	31.0%	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	45.1%
総資産	1,726	1,694	1,832	1,773	1,727	1,723	1,814	1,834	1,901	1,992	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	-
純資産	704	800	936	993	1,012	968	1,077	1,124	1,196	1,267	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	-
自己資本比率	40.1%	46.4%	50.2%	55.3%	58.0%	55.5%	58.7%	60.7%	62.4%	63.0%	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	-
R&D費用	87	86	92	99	125	137	131	126	136	137	142	150	158	161	172	178	172	168
同 売上高比率	5.6%	5.3%	5.4%	5.7%	7.4%	8.6%	8.8%	8.2%	9.2%	8.9%	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	8.0%

*2020/11発表

当社の特徴① 売上高営業利益率

1. 景気変動の影響を受けやすい化学業界にあって、
 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持
 2003年度以降17年連続10%以上

※売上高営業利益率(営業利益÷売上高 売上高に対する営業利益の比率)



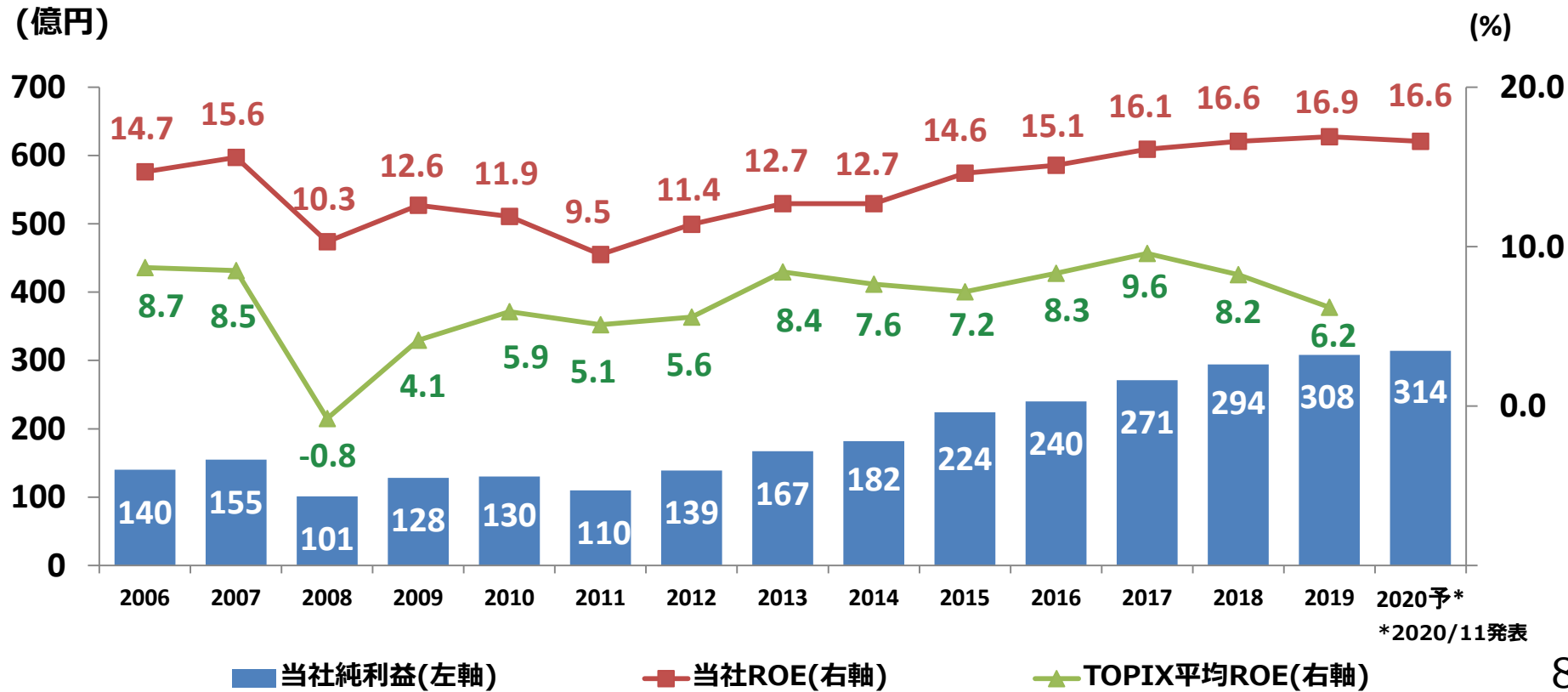
■ 当社営業利益(左軸) ■ 当社売上高営業利益率(右軸) ▲ 大手総合化学6社平均売上高営業利益率(右軸)

当社の特徴② ROE

2. ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準維持
 (2019年度実績16.9%、日本企業平均6%程度)

中期経営計画 (2019-21年度) 目標：16%以上維持

※ROE(Return on Equity：当期純利益÷自己資本)



当社の特徴③ 株主還元

3. 株主の皆様への積極的な利益還元

3-1) 配当性向 (=配当/一株当たり当期純利益 (EPS))

- ◆ 2015年度までは30%前後、
2016年度から段階的に引き上げ

配当性向 中期経営計画 (2019-21年度) 目標と実績

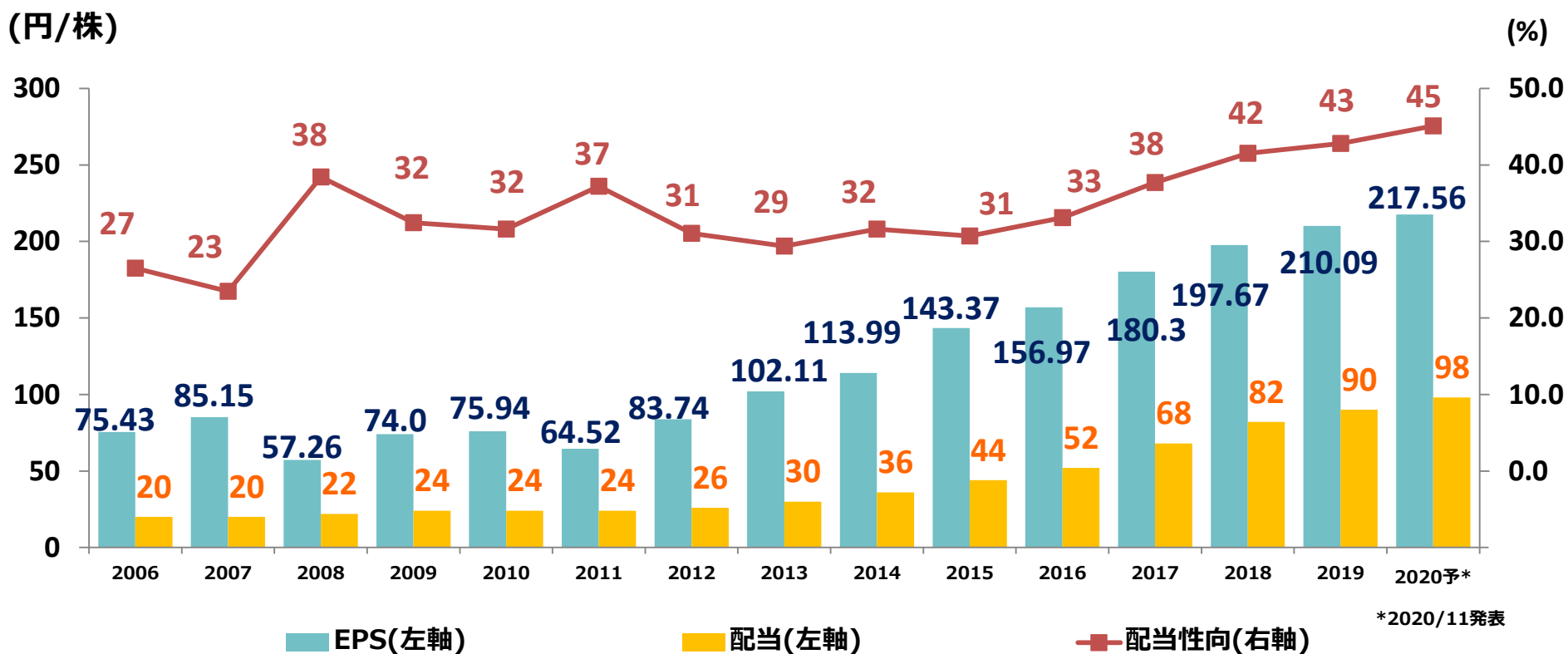
年度	2019	2020*	2021
中期経営計画 目標	42.5%	45%	45%
実績	達成 42.8%	達成見込 45.1%	-

*2021年2月時点見込

当社の特徴④ 株主還元

◆ EPS、配当、配当性向

※EPS：一株当たり当期純利益(Earnings Per Share)(=当期純利益÷発行済み株式数)



当社の特徴⑤ 株主還元

3-2) 自己株式取得

- ◆ ROE向上を目的に、2006年度から継続して実施
取得株は基本的に取得した年度に消却する方針
- ◆ 2006-19年度
取得総額825億円、
取得総数4,089万株（取得開始前発行済株式数の21.8%）
消却済株数4,164万株

3-3) 株主総還元性向（(配当総額+自己株式取得額)÷当期純利益）

- ◆ 配当と自己株式取得を合わせた株主の皆様への積極的な利益還元の結果、
近年は70%台で推移（日本企業平均：45%程度）

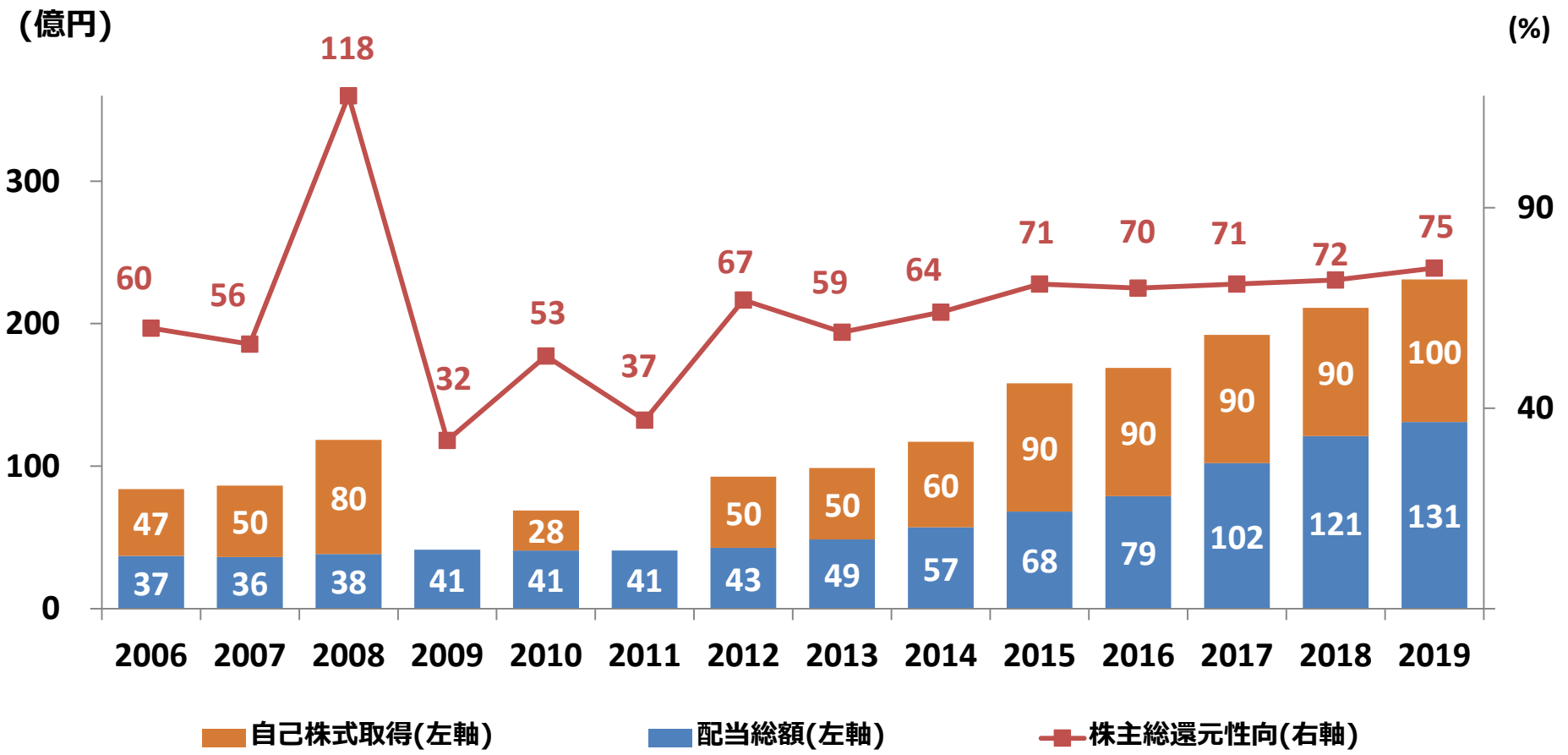
総還元性向 中期経営計画（2019-21年度）目標と実績

年度	2019	2020*	2021
中期経営計画 目標	72.5%	75%	75%
実績	達成 75.1%	達成見込 76.7%	-

*2021年2月時点見込

当社の特徴⑥ 株主還元

◆ 配当総額、自己株式取得額、株主総還元性向



当社の特徴⑦ 株主還元

- ◆取得した自己株式は、すべて消却（日本企業では稀有）
- ◆2006-19年度 自己株式取得、消却実績

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
自己株式取得総数（千株） (1)	3,500	3,399	7,355	0	2,167	0	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	40,886
取得価額総額（億円）(1)	47	50	80	0	28	0	50	50	60	90	90	90	90	100	825
自己株式消却総数（千株）	3,000	3,635	7,000	0	3,000	0	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	41,635
発行済株式総数（百万株）	185	181	174	174	171	171	165	161	158	156	154	151	149	146	
期末自己株式数（千株）(2)	1,367	1,233	1,660	1,709	885	886	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	
株主総還元性向(%) (3)	60	56	118	32	53	37	67	59	64	71	70	71	72	75	

(1)単位未満株式買取を除く (2)単位未満株式を含む (3)株主総還元性向 = (配当総額+自己株式取得額)÷当期純利益

◆取得

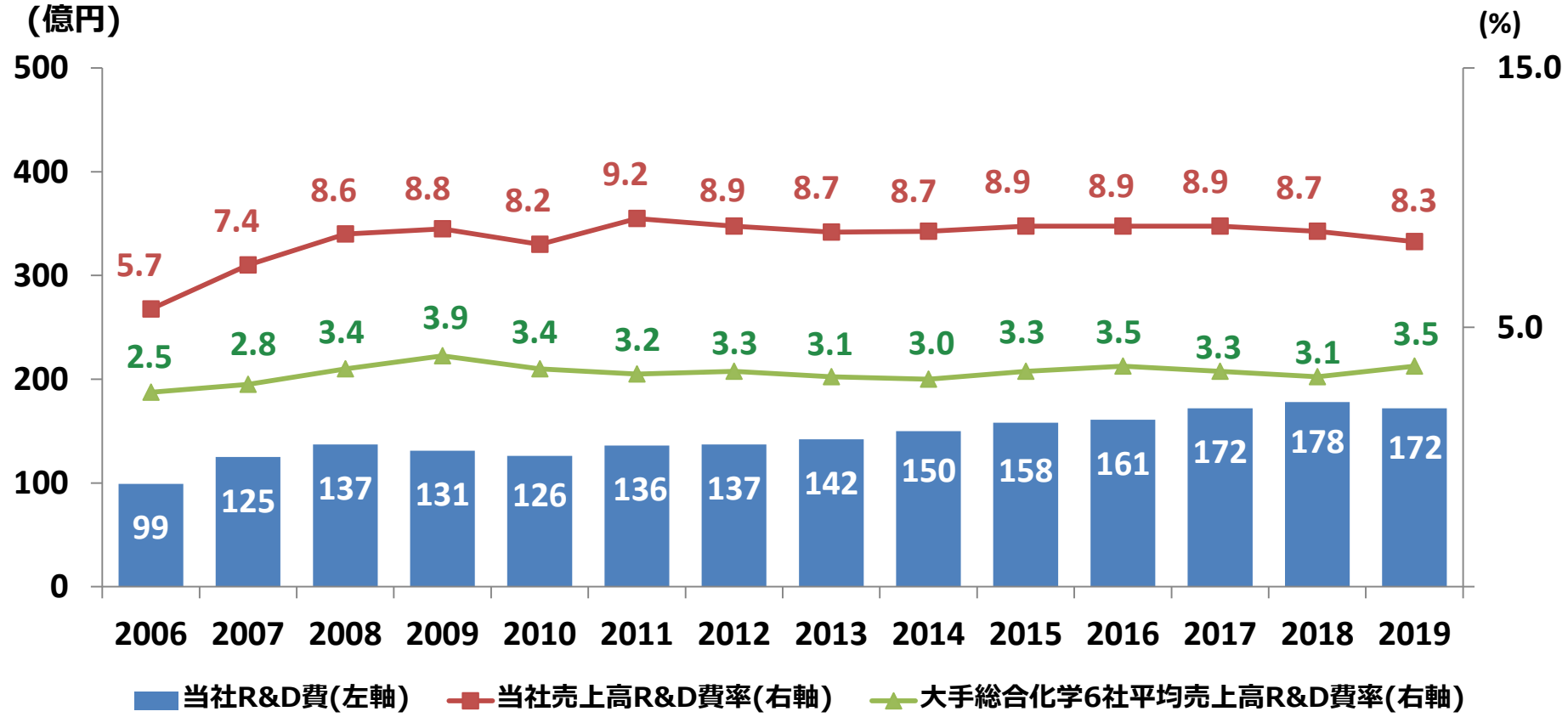
年度	2017			2018			2019			2020	
	上	下	計	上	下	計	上	下	計	上実績	2021年2月8日～4月30日*
自己株式取得総数（千株）(1)	1,304	988	2,292	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	800（上限）
取得価額総額（億円）(1)	50	40	90	50	40	90	60	40	100	70	30（上限）
自己株式消却総数（千株）	3,000	0	3,000	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	

* 2021年2月5日発表

当社の特徴⑧ 研究開発

4. 独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業

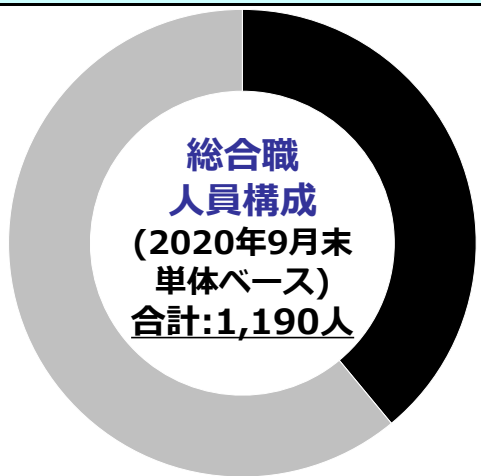
- ◆ R&Dを重視し、売上高R&D費率は約9%と高水準を維持
- ◆ 総合職の約40%はR&D要員（単体ベース）



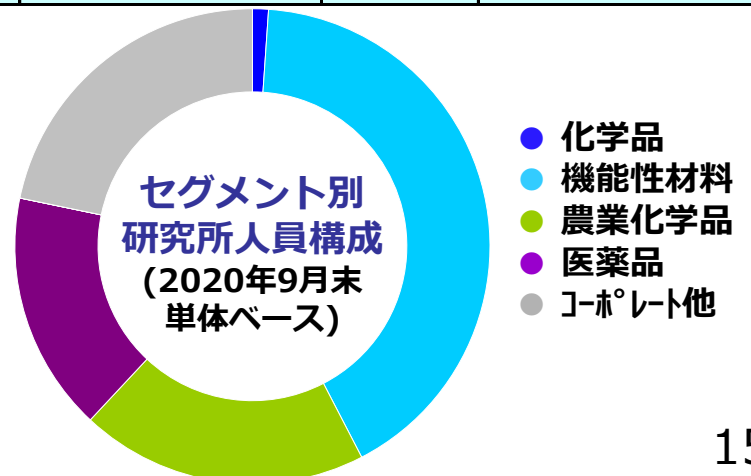
当社の特徴⑨ 研究開発

◆セグメント別研究開発費

セグメント	主要製品・分野	2019年度実績				
		売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	アモニア系製品、硫酸系製品 ファインケミカル	343	13	3.8%	4	1.2%
機能性材料	液晶ディスプレイ用配向膜 半導体反射防止材	655	170	26.0%	77	11.8%
農業化学品	農薬	640	193	30.2%	46	7.2%
医薬品	リハロ、ファインテック	70	9	12.9%	25	35.7%
コーポレート他	新製品	-	-	-	20	-
その他共合計		2,068	386	18.7%	172	8.3%



● 研究所 39%
● その他 61%



東京証券取引所 第8回（2019年度） 企業価値向上表彰候補に選定

◆2020年1月、東京証券取引所が選ぶ

「企業価値向上表彰*」の
表彰候補として、2018年度に続き2年連続で、
約3,600社中の50社に選定された。

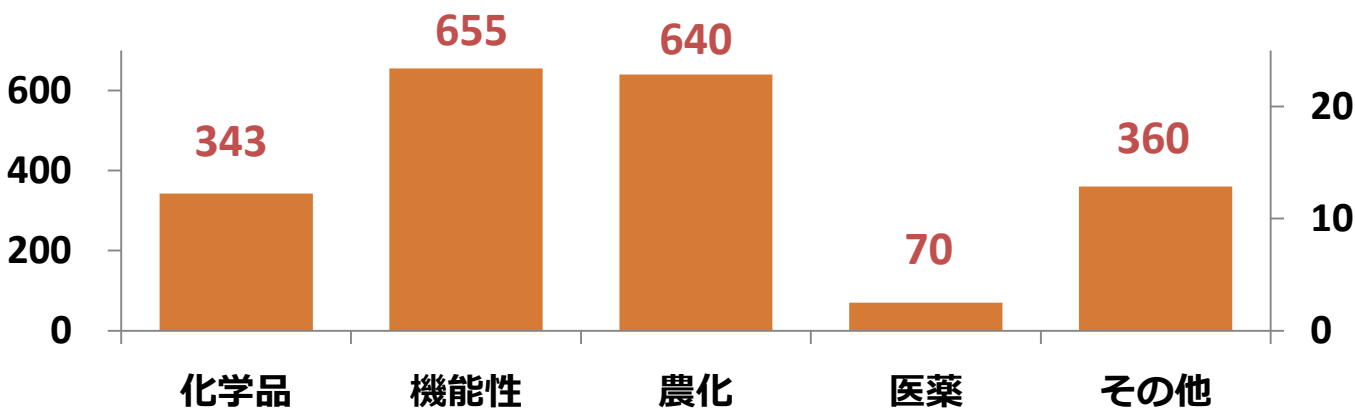
※2020年度は新型コロナウイルスの影響で表彰実施見送り

*東証に上場する企業のうち、資本コストやROEなど投資者の視点を強く意識した経営を実践し、高い企業価値の向上を実現している会社を表彰する制度

詳細：<https://www.jpx.co.jp/equities/listed-co/award/01.html>

当社の事業構成① 2019年度

2019年度 売上高 (億円)

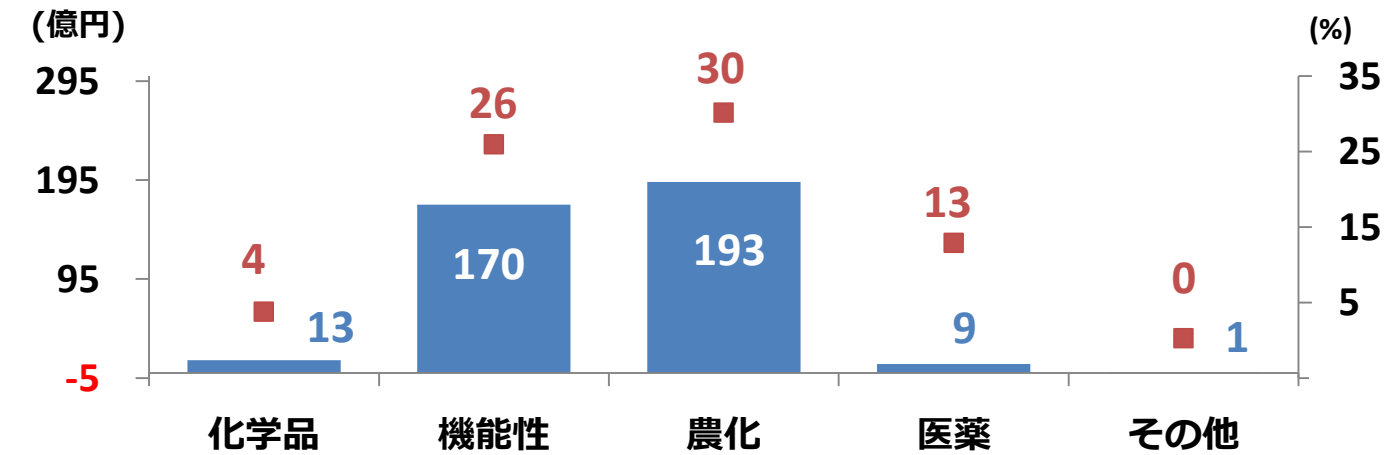


- 化学品
- ・アンモニア
 - ・硫酸系基礎化学品
 - ・ファインケミカル

- 機能性材料
- ・液晶ディスプレイ材料
 - ・半導体材料
 - ・無機コロイド

- 農業化学品
- ・農薬
 - ・動物用医薬品

2019年度 営業利益・売上高営業利益率



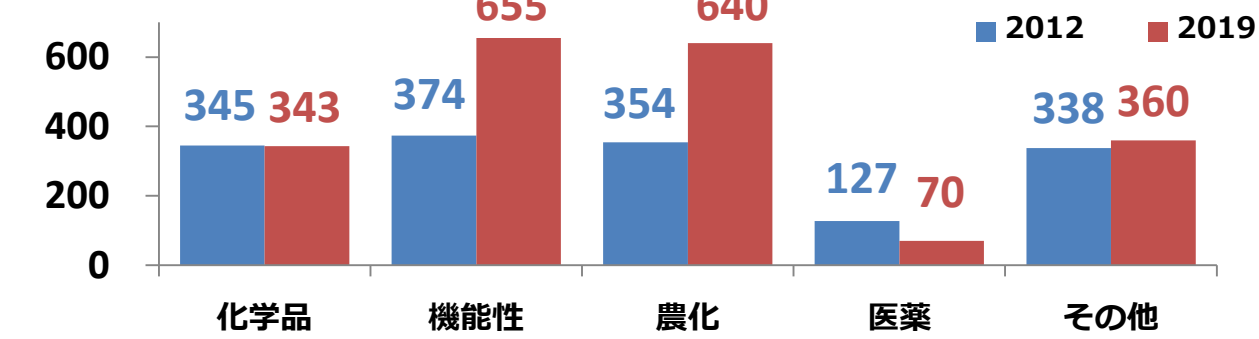
- 医薬品
- ・自社創薬
 - ・原薬開発サポート

- その他
- ・卸売、物流、緑化、エンジニアリング

■ 営業利益(左軸) ■ 営業利益率(右軸)

当社の事業構成② 2012年度と2019年度の比較

売上高 (億円)



- 化学品**
- ・アンモニア
 - ・硫酸系基礎化学品
 - ・ファインケミカル

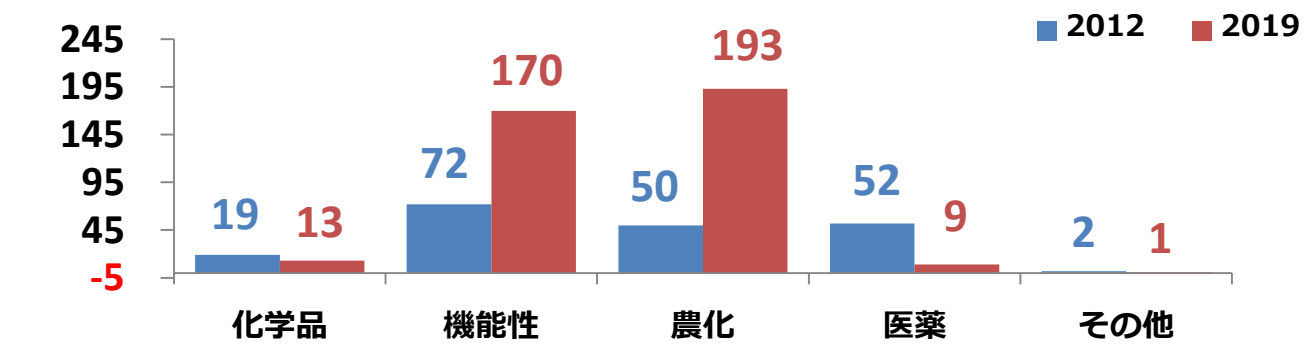
- 機能性材料**
- ・液晶ディスプレイ材料
 - ・半導体材料
 - ・無機コロイド

- 農業化学品**
- ・農薬
 - ・動物用医薬品

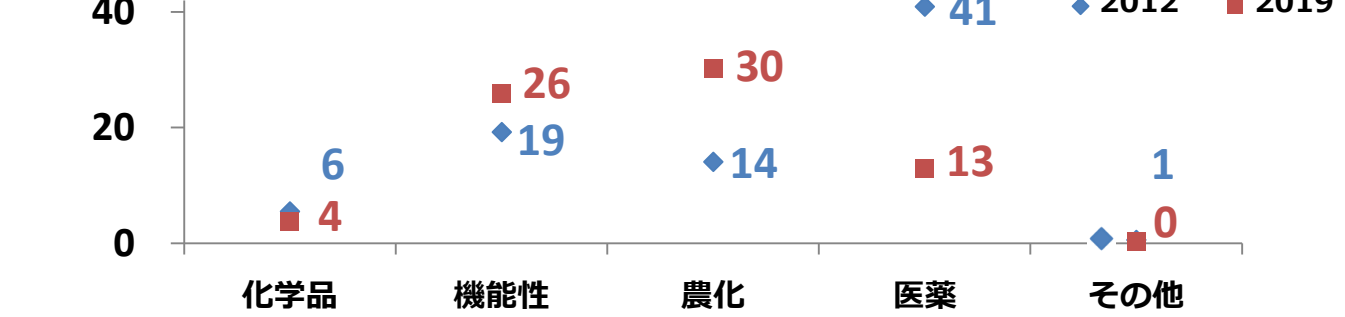
- 医薬品**
- ・自社創薬
 - ・原薬開発サポート

- その他**
- ・卸売、物流、緑化、エンジニアリング

営業利益 (億円)

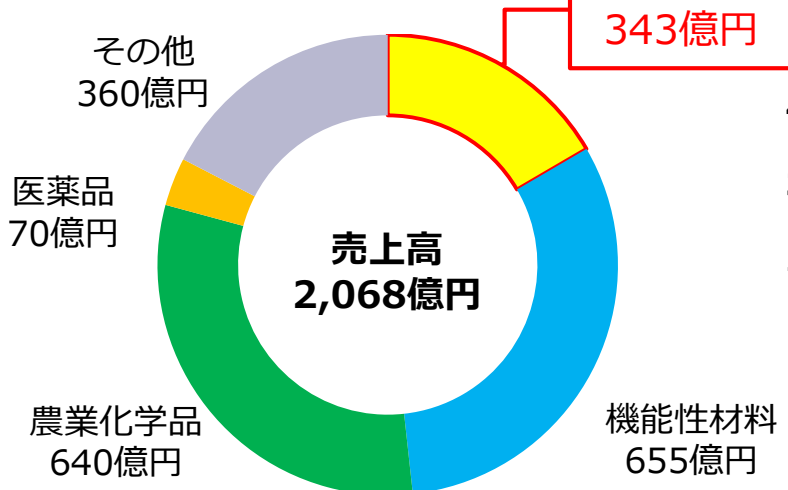


営業利益率 (%)

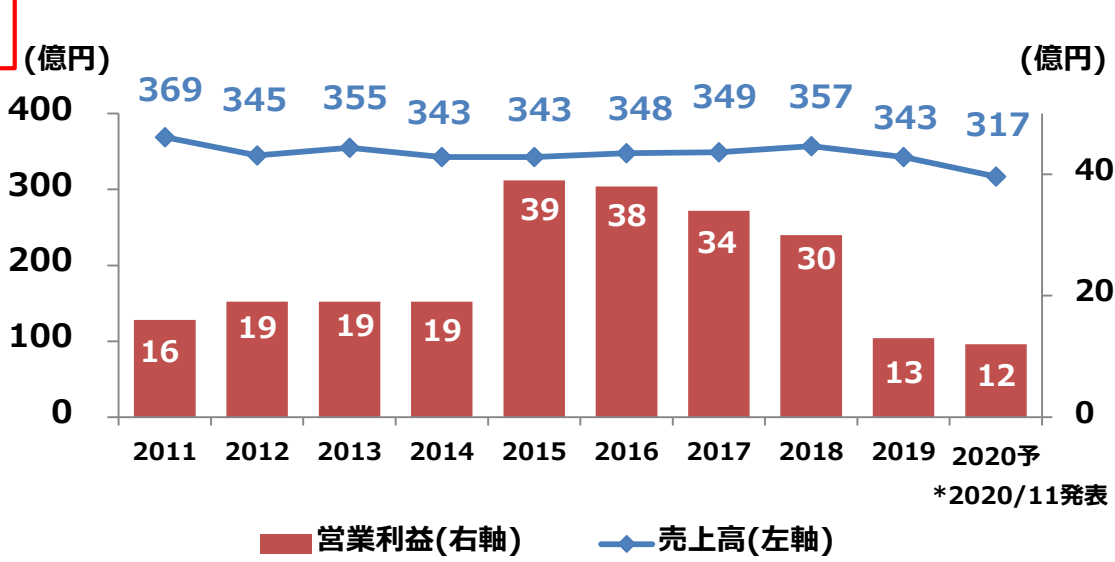


化学品セグメント① 業績

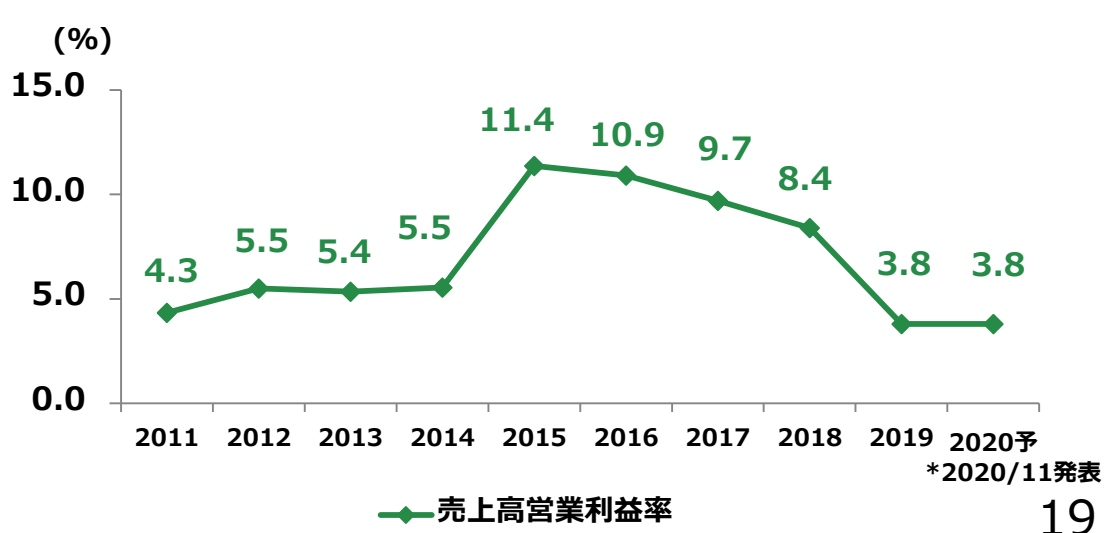
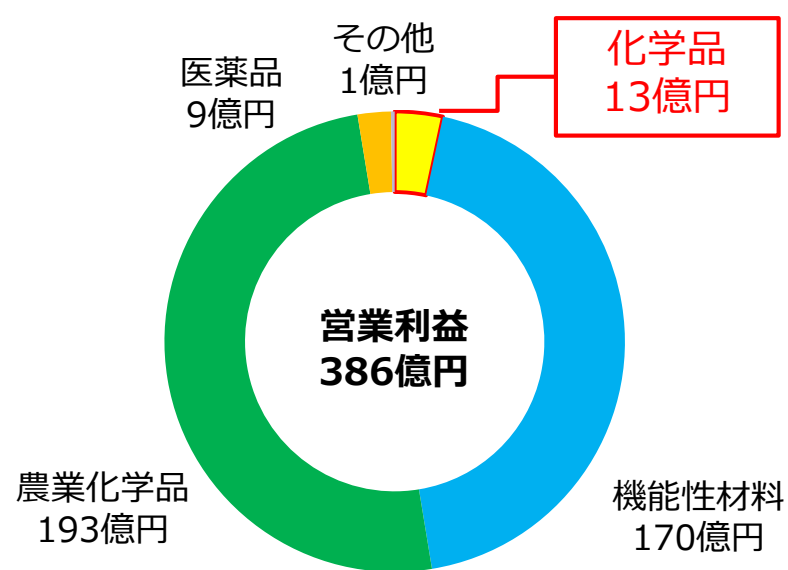
1. 2019年度 売上高構成



3. 化学品業績推移



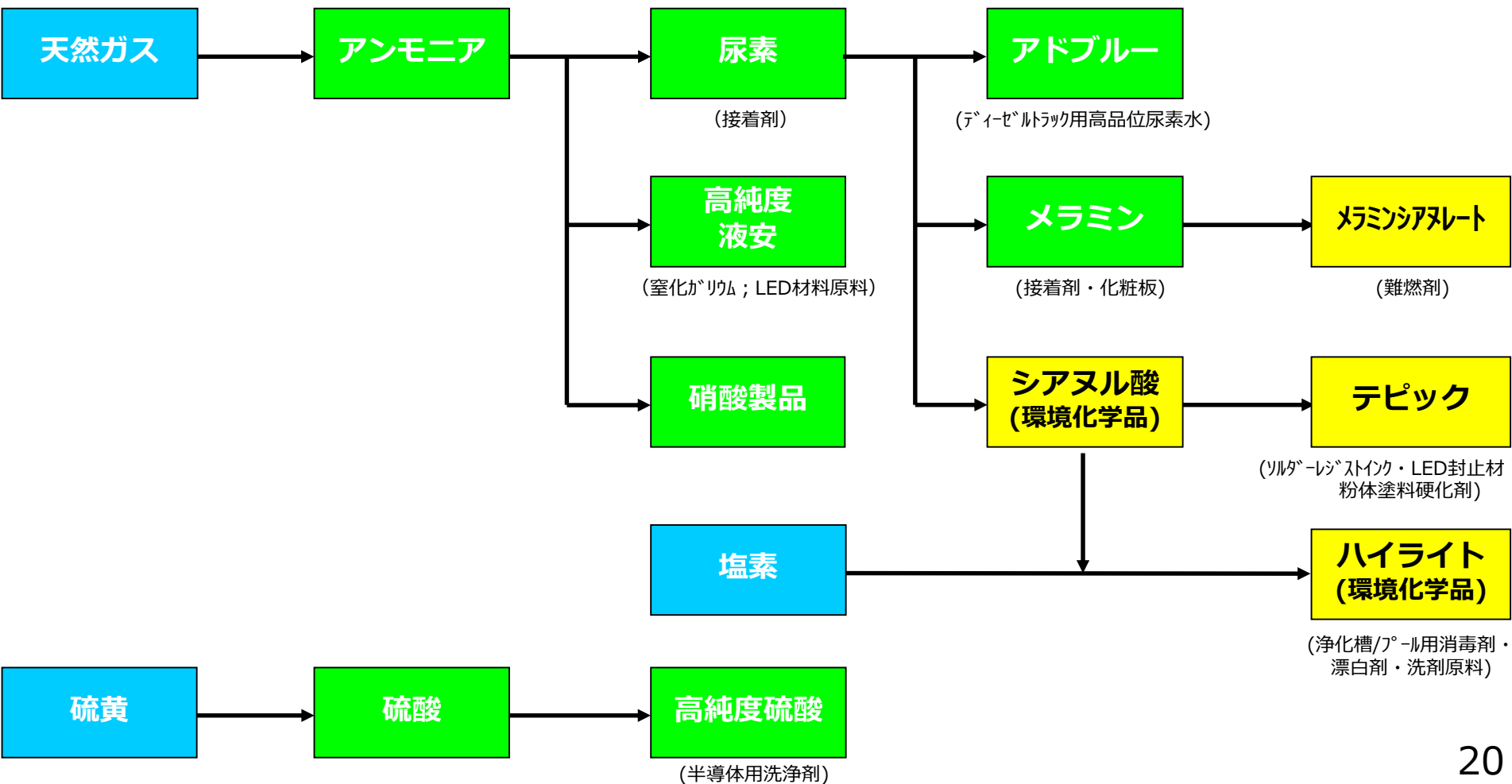
2. 2019年度 営業利益構成



化学品セグメント② 主要製品と製造フロー

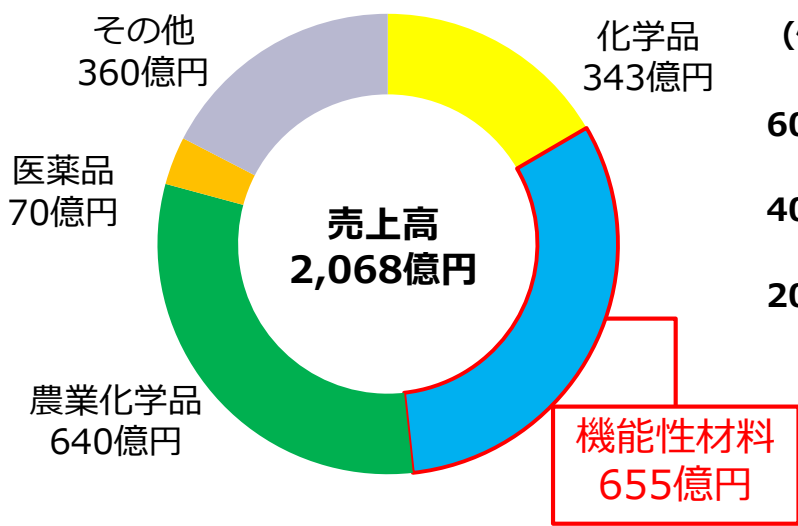
- ◆ アンモニア系製品と硫酸系製品
- ◆ 2019年度アンモニア国内生産シェア11%、高い自消率による付加価値向上

= 社外調達原材料
 = 基礎化学品
 = ファインケミカル

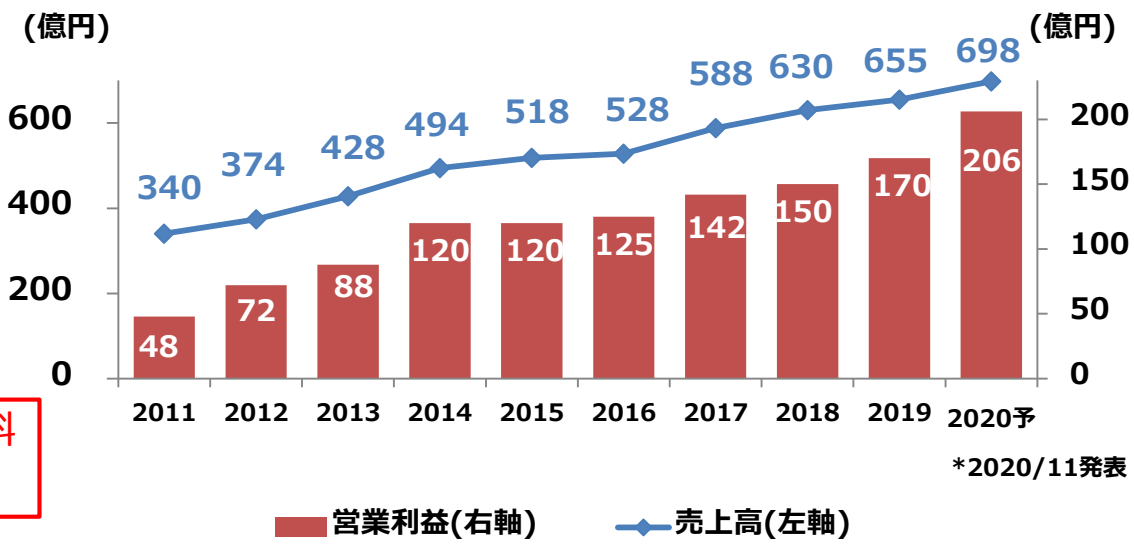


機能性材料セグメント① 業績

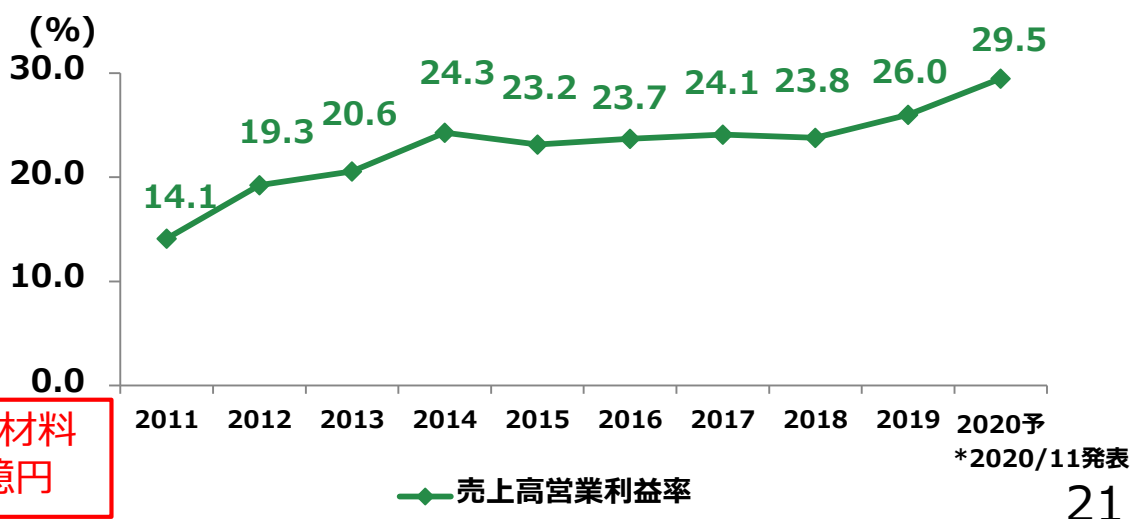
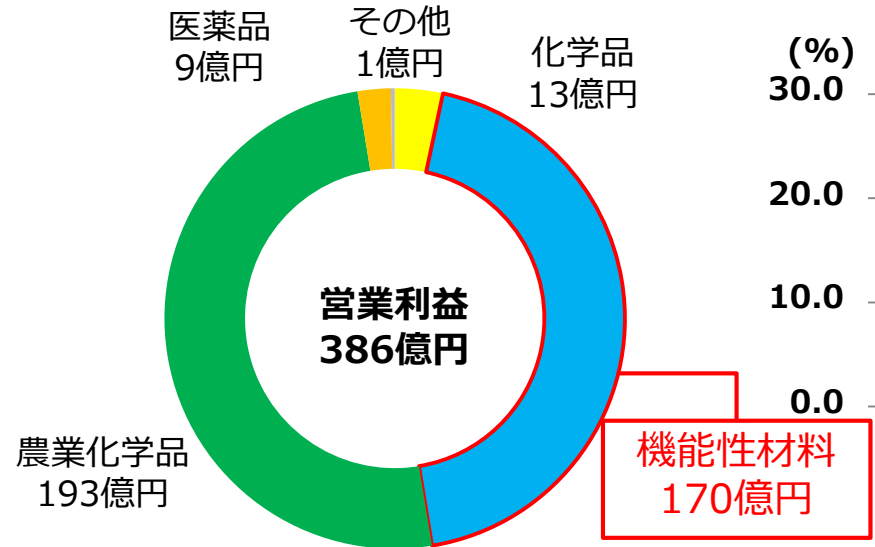
1. 2019年度 売上高構成



3. 機能性材料業績推移



2. 2019年度 営業利益構成



機能性材料セグメント② 特徴

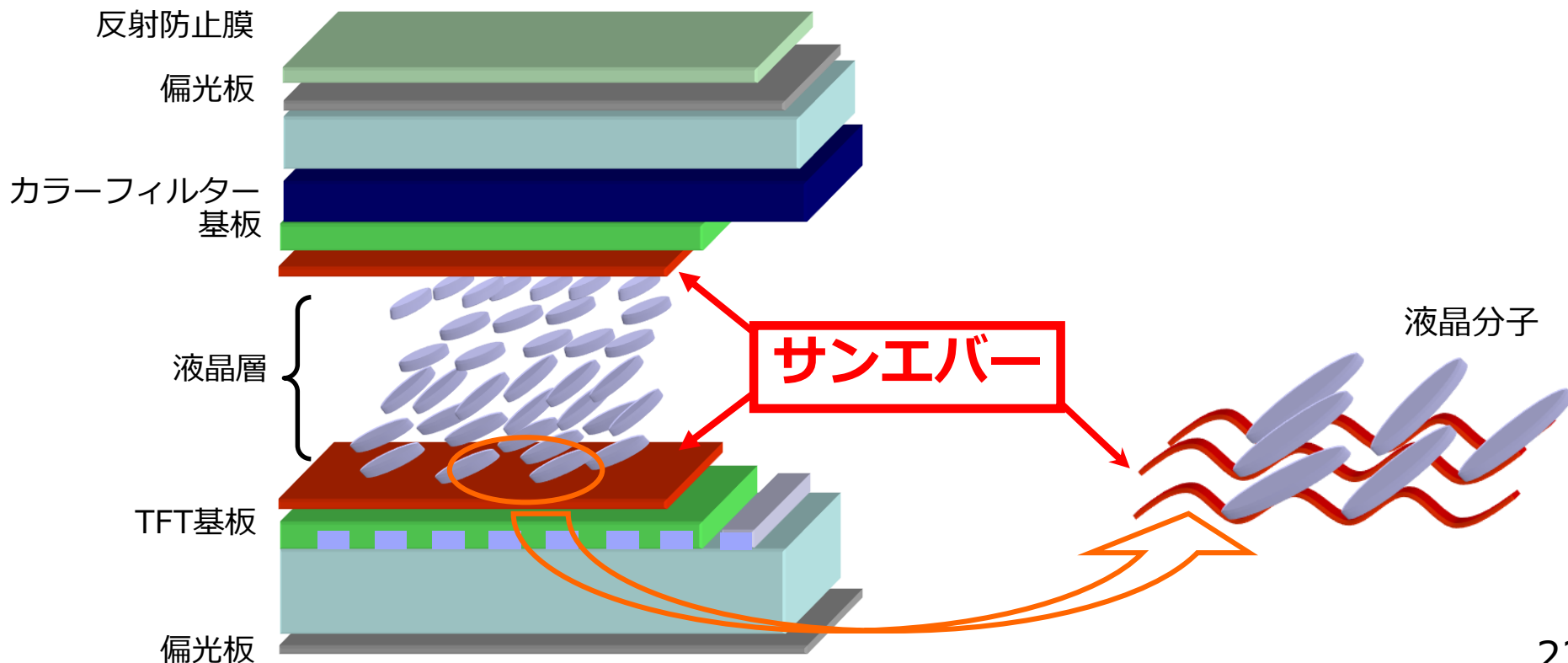
- ◆ 高収益源
- ◆ 世界市場シェアの高い商品を有す
- ◆ 新製品開発力（2019年度売上高研究開発費率11.8%）

機能性材料セグメント③ 液晶ディスプレイ材料

◆液晶ディスプレイ用配向膜 サンエバー

- ・液晶の向き、反応速度、コントラスト、解像度、焼き付きなどを制御する材料
- ・当社とA社が世界二大メーカー
- ・当社は光配向IPS技術を駆使し、スマホ・タブレット・ノートパソコン向けで優位

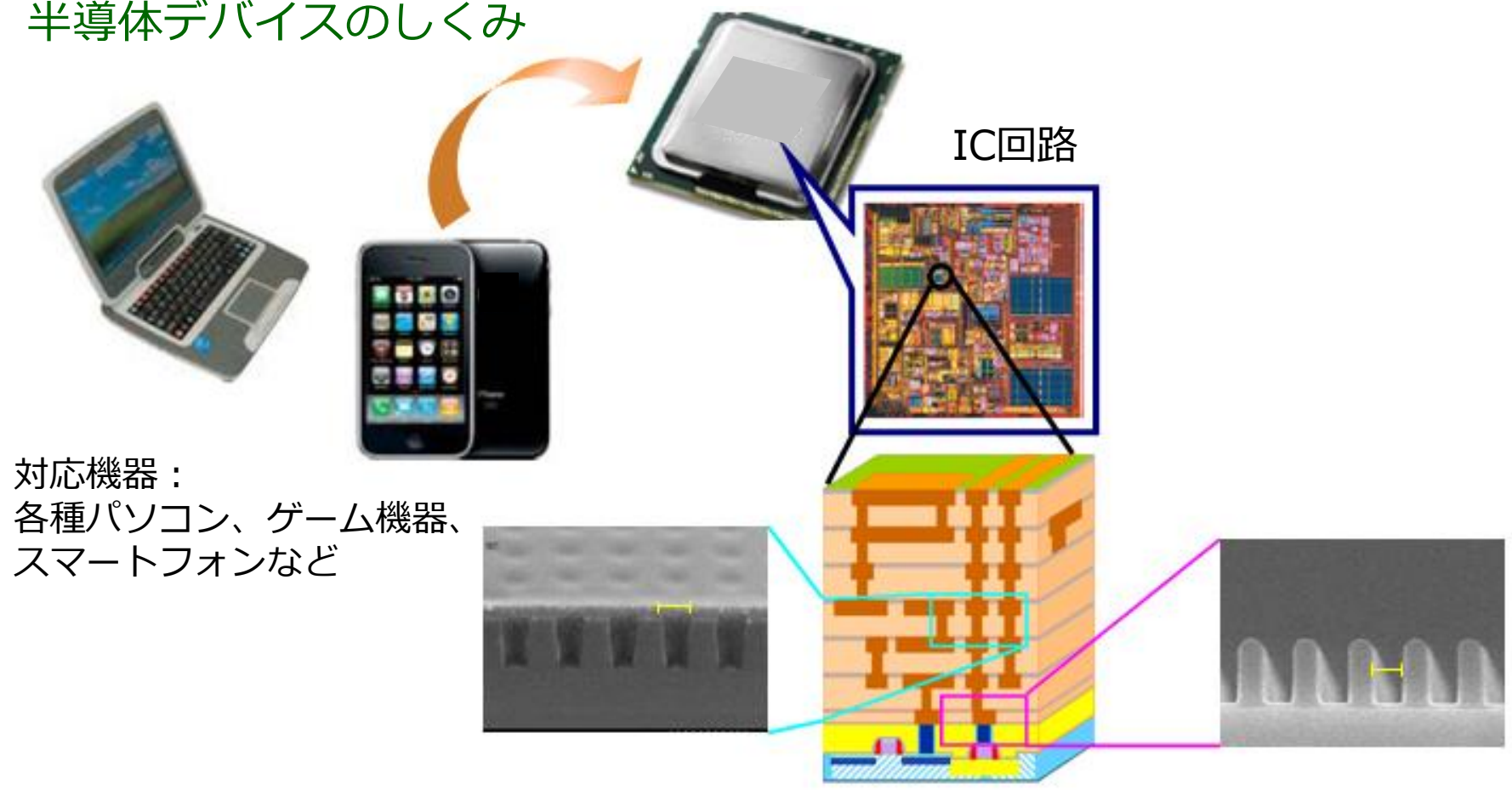
(液晶パネル断面図)



機能性材料セグメント④ 半導体材料

◆半導体反射防止コーティング材ARC®

半導体デバイスのしくみ



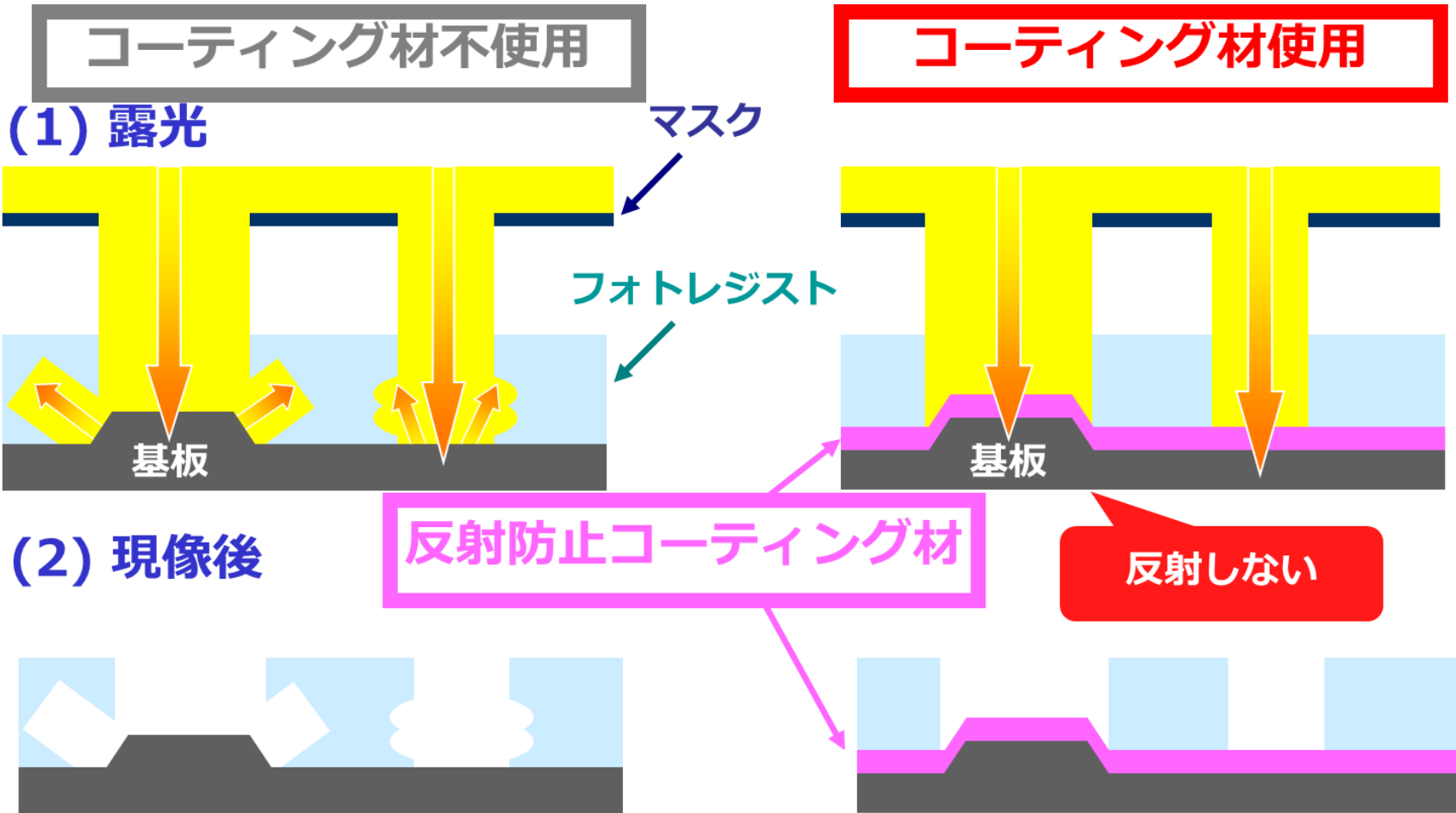
対応機器：
各種パソコン、ゲーム機器、
スマートフォンなど

次ページに拡大図

機能性材料セグメント⑤ 半導体材料

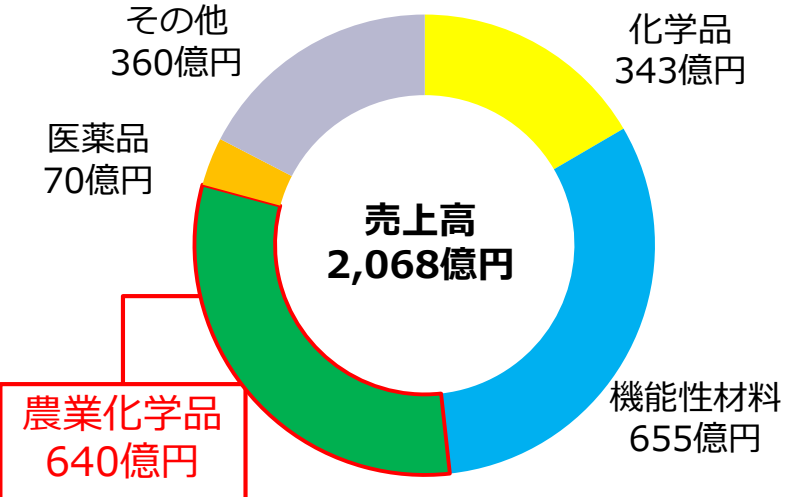
◆半導体反射防止コーティング材ARC®

- ・露光時に光の反射を防止することにより、微細なパターン形成を可能とする
- ・当社は、アジアで圧倒的最大のシェアを有し、アジアの半導体産業の成長とともに当社事業も拡大

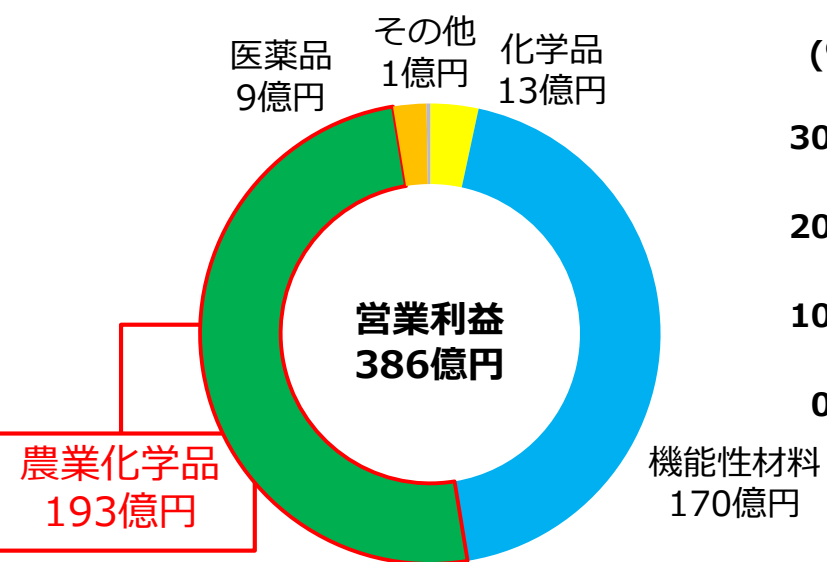


農業化学品セグメント① 業績

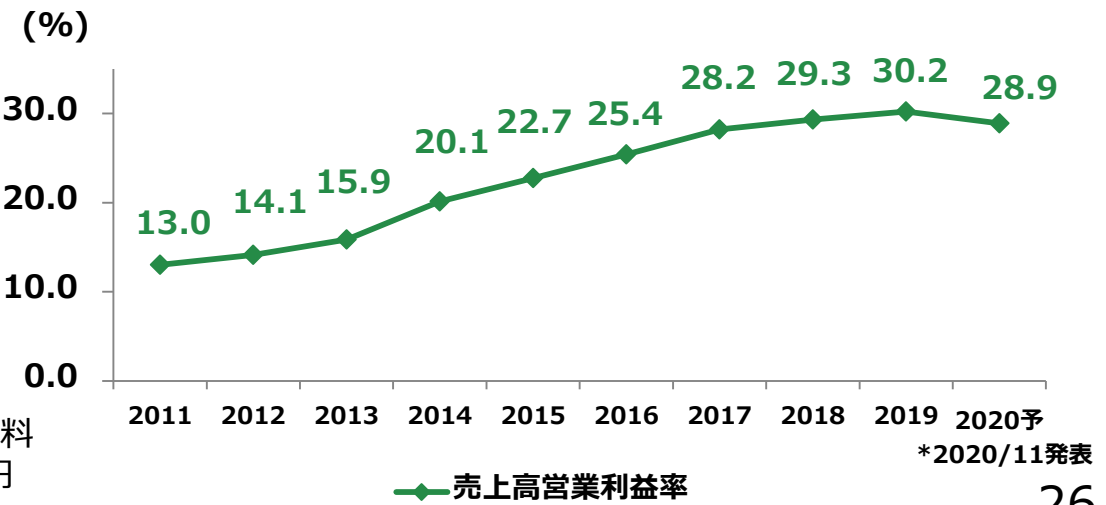
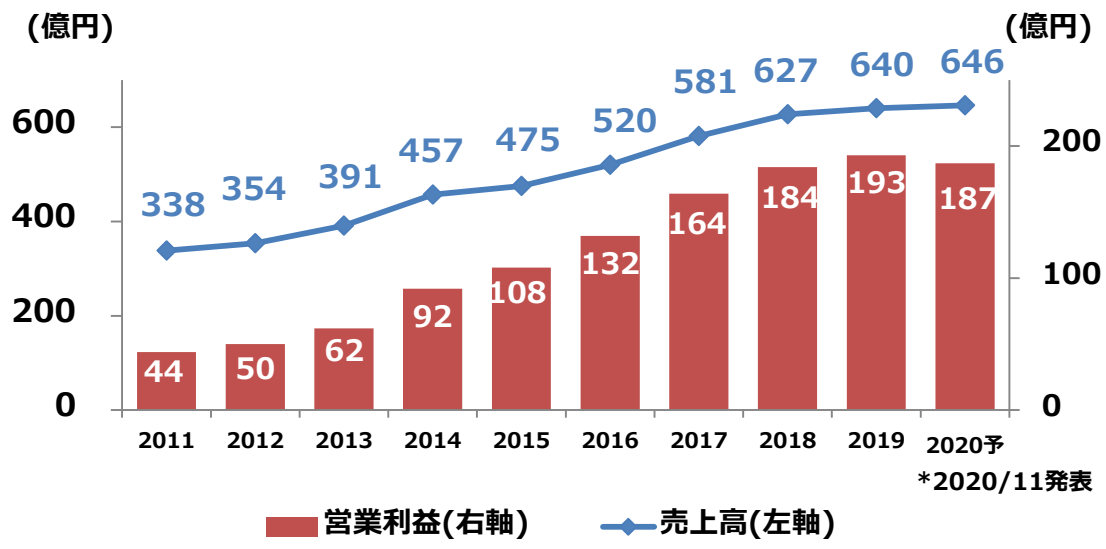
1. 2019年度 売上高構成



2. 2019年度 営業利益構成



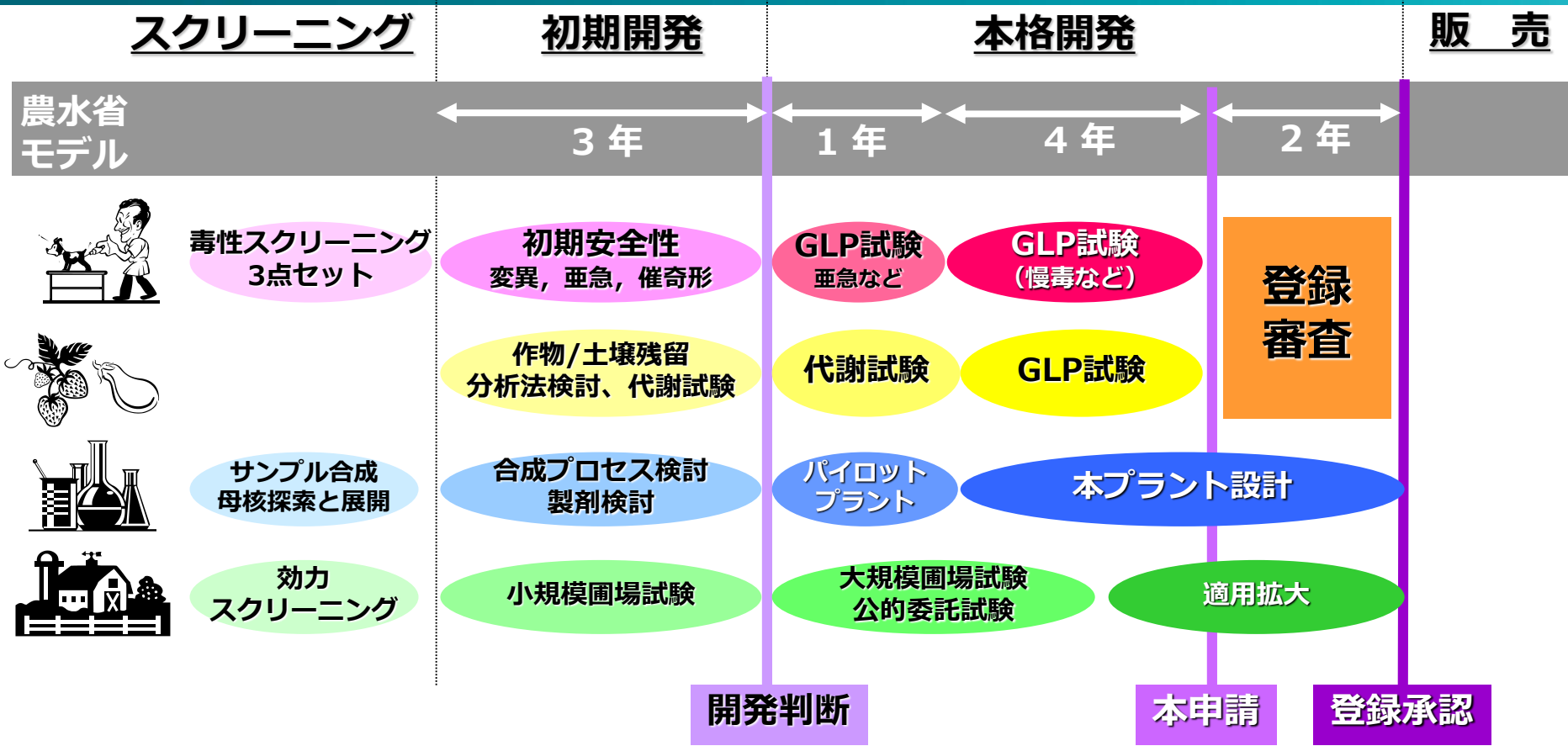
3. 農業化学品業績推移



農業化学品セグメント② 特徴

- ◆ 新剤開発には、長期間、多額の研究開発費を要する
- ◆ 経済変動の影響が小さい安定的事業
- ◆ 自社開発新剤を柱に、剤の買収・導入による販売力強化
(2019年11月、殺菌剤クインテック買収(P29、33参照)
2020年12月、殺菌剤ダイセン買収(P29、34参照))
- ◆ 国内農薬販売額No.1
- ◆ 現在は、アルテア（水稲用除草剤）、
フルララネル（動物用医薬品原薬）、
グレーシア（殺虫剤）などを
成長エンジンとして高成長

農業化学品セグメント③ 開発スケジュール



(当社開発品の一例、化合物ヒットの確率)

139,429 → 2 → 1



開発費100-150億円

農業化学品セグメント④ 主要製品

上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	パルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社*向けにブラベクト原薬として出荷開始
2014	ブラベクト**	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2015	トレファノサイド	除草剤	導入	米国ゴーワン社がダウ社より買収、当社は国内販売独占権を継承
2017	ネクスター	殺菌剤	導入	スイス シンジエンタ社より導入
2017	トランスフォーム/エクシード	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効。ミツバチへの影響が少ない 2018年韓国で上市(ピーク時売上高目標100億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	米国コルテバ社より世界事業を買収
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収

新製品パイプライン

上市年度	製品パイプライン名	分類	開発経緯	備考
2023	未定(ピラプロポイン)(NC-241)	殺菌剤	自社開発	汎用性(ピーク時売上高目標50億円)
2024	未定(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上高目標30億円)
2027	未定(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ、アゼガヤ)に優れた効果を持つ 当社初の水稲用茎葉散布除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

*MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

**ブラベクト:MSD社の販売製品名

農業化学品セグメント⑤ アルテア



問題の`根、は、
地下にありました。

ホタルイや多年生雑草の地上部を枯らすだけでなく、翌年の発生原因となる塊茎の形成も抑えることができる。新成分「アルテア」配合の水稲用除草剤シリーズが新登場。未来につながる雑草防除を、お勧めします。

誕生！ 多年生雑草も抑える新成分、「アルテア」配合の除草剤シリーズ。



ツインスター
1キログラム/ジャンボ/フロアブル
問題雑草に強い
(アルテア+タイムロク)

月光
1キログラム/フロアブル
ノビエにより長く
(アルテア+カエン/スロール+タイムロク)

銀河
1キログラム/ジャンボ
抵抗性雑草^①により強く
(アルテア+タイムロク+ピラクロニル)

コメット
1キログラム/ジャンボ/顆粒
抵抗性雑草^①に効果アップ
(アルテア+テフルトリオン+ピラクロニル)



◆アルテア

- ・ホタルイやカヤツリグサ科多年生雑草に卓効を示す広スペクトラム除草剤
- ・従来のスルホニルウレア系除草剤に抵抗性を示す雑草にも有効
- ・日本、韓国、中国で販売中

農業化学品セグメント⑥ フルララネル

*MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門の
MSD Animal Health 社の略称

◆フルララネル (Fluralaner)

- BRAVECTO・EXZOLTの有効成分として、当社が開発し、MSD社*に供給
- BRAVECTOシリーズ・EXZOLTは現在100か国で発売中
- 化合物特許 ・2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - ・ UK、ドイツ、フランス等欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

◆ブラベクト (BRAVECTO)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬で、犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット（経口投与製剤）
2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
2020年7月1か月剤（子犬向け）米国販売承認
- 犬、猫向けスポットオン製品（経皮投与製剤）
 - 猫向け
2016年7月欧州、以降米国、日本等で上市
 - 犬向け
2017年1月米国・欧州等で上市、2020年8月日本販売承認

◆ブラベクトプラス (BRAVECTO Plus)

- 猫向け外内部寄生虫スポットオン合剤
2018年7月欧州、以降米国等で上市、2020年8月日本販売承認

◆エグゾルト (EXZOLT)

- 鶏向けワクモ駆除剤（飲水投与）
2017年9月欧州、以降韓国、中東等で上市



農業化学品セグメント⑦ グレーシア



◆グレーシア

- 野菜、茶用殺虫剤
- 広範囲の害虫に有効で、既存剤に抵抗性を示す害虫にも効果を発揮
- 有効成分が直接害虫に作用し、速く効く
- ミツバチへの影響が少ない
- 日本、韓国で販売中

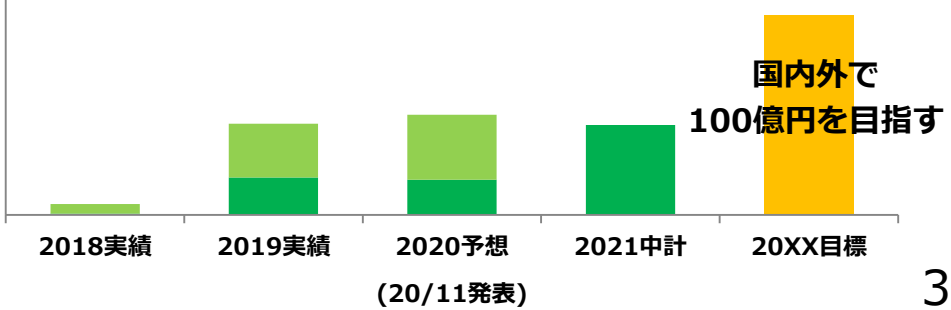
大切な作物の食害を抑え、収量を確保したい。決め手は「効きの速さ」と「対象害虫の幅広さ」。食べられる前に害虫を駆除、新規殺虫剤 グレーシア。

新発売 **グレーシア**® 乳剤
野菜・茶用殺虫剤

- 新規有効成分フルキサメタミド配合。抵抗性コナガにも有効
- 葉内に薬剤が浸透、葉裏の害虫も誘治
- 幅広いチョウ目害虫に効果
- 殺虫効果は約2週間持続

日産化学株式会社

◆グレーシア売上高成長予想



農業化学品セグメント⑧ クインテック

◆クインテック（キノキシフェン）

Quintec[®]

FUNGICIDE

- ・有効成分キノキシフェンを含む製品群中の主製品
- ・果樹、野菜用殺菌剤
- ・2019年11月米国コルテバ社より買収、12月販売開始
- ・果樹（特にブドウ）や野菜のうどんこ病（カビの1種）の発病予防に非常に効果的
- ・主な市場は米国

キノキシフェン収益予想

（億円）

年度	営業利益	償却前営業利益
2019	0	3
2020	5	10
2021-24計	25	55

農業化学品セグメント⑨ ダイセン



ジマンダイセン® 水和剤

園芸用殺菌剤

時代をこえて愛され続ける保護殺菌剤。

- 幅広い種類の病害防除に役立ちます。
- 付着力と耐雨性に優れた製剤粒子構造により、効果が持続。
- 果樹や多種類の野菜など、広範な作物に登録があります。
- みかん・かんきつの黒点病、ばれいしょの疫病、てんさいの褐斑病は無人航空機による防除が可能。



 日産化学

◆ダイセン（マンゼブ）

- ・有効成分マンゼブを含む製品群中の主製品
- ・果樹（特にりんご、かんきつ）、野菜用保護殺菌剤
- ・2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業買収、2021年1月販売開始
- ・耐雨性に優れる

ダイセン収益予想

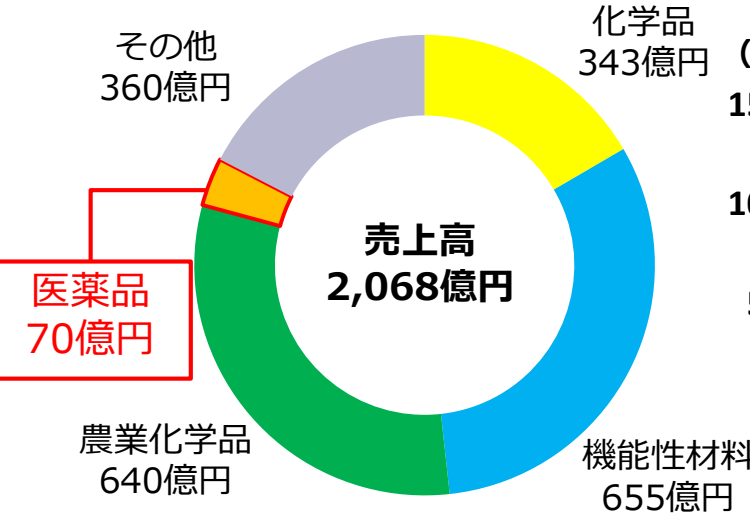
(億円)

年度	営業利益	償却前営業利益
2020	0	2
2021	0	10
2022-26計	10	50

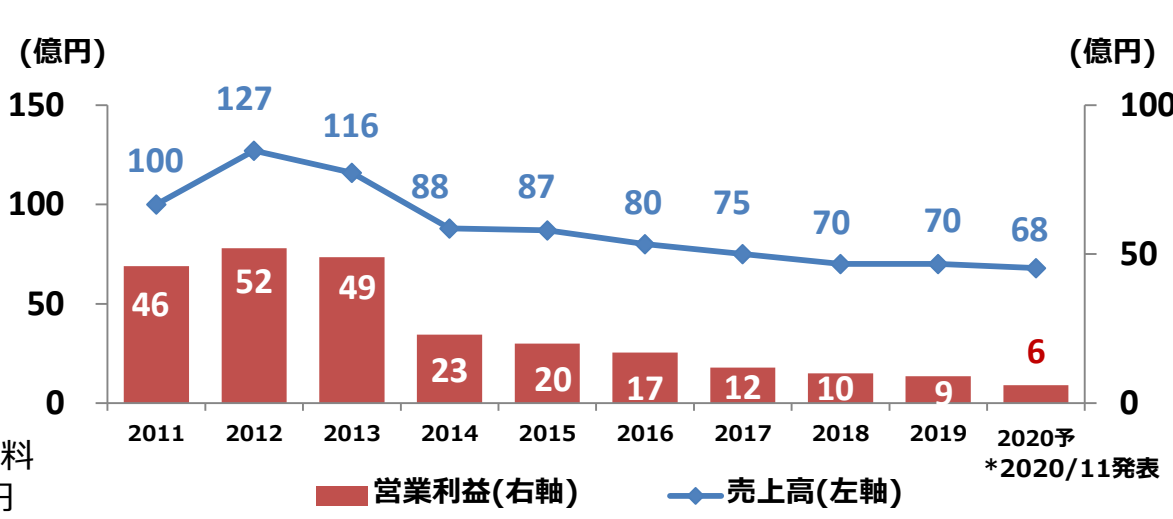
*償却5年定額（監査前のため変更可能性あり）

医薬品セグメント① 業績

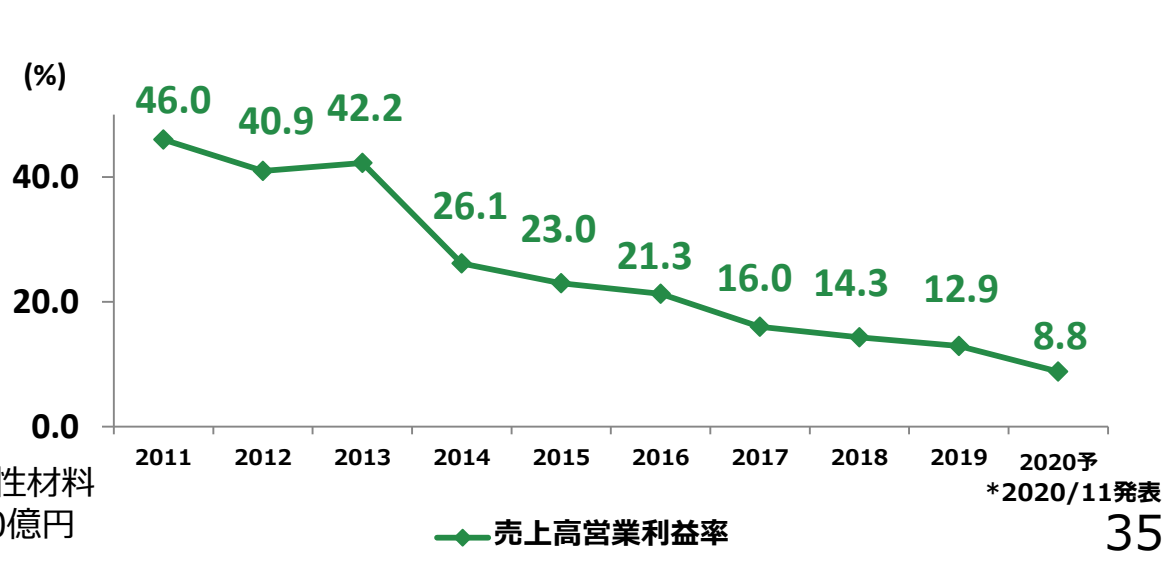
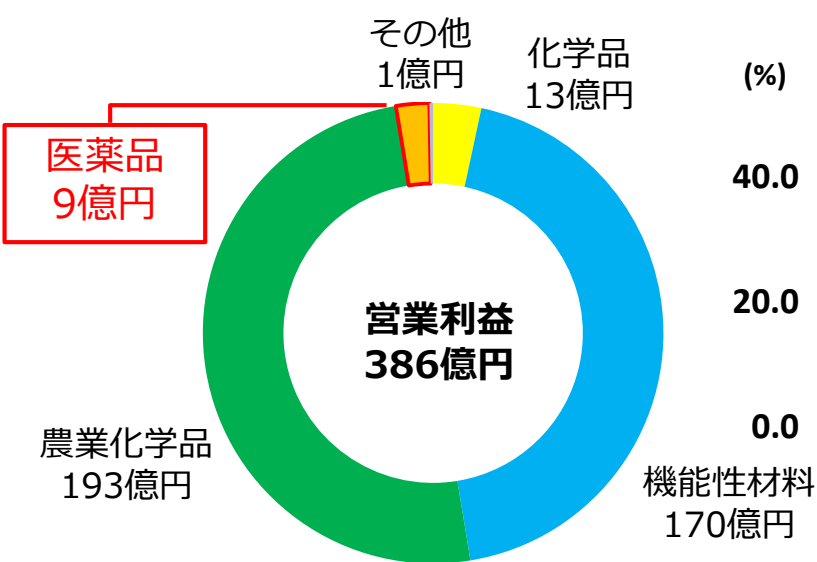
1. 2019年度 売上高構成



3. 医薬品業績推移



2. 2019年度 営業利益構成

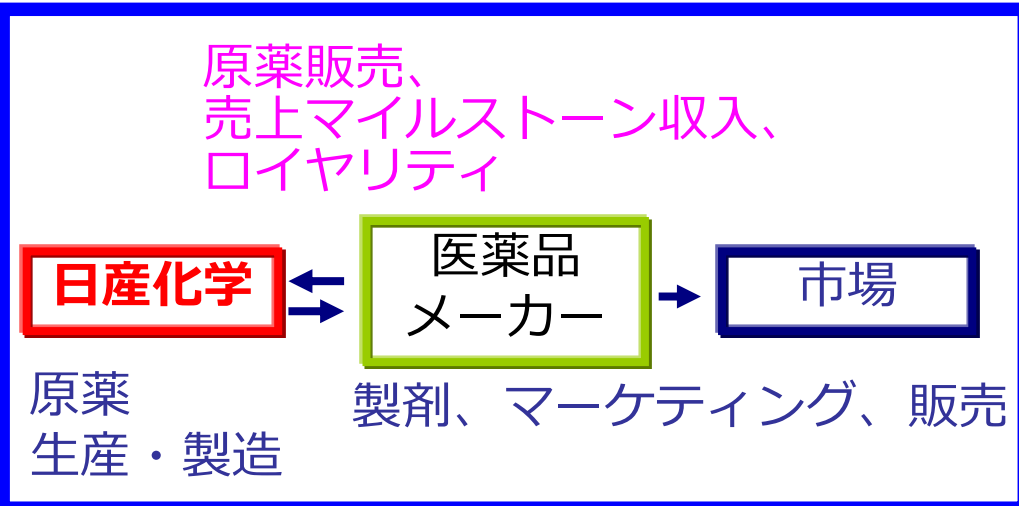
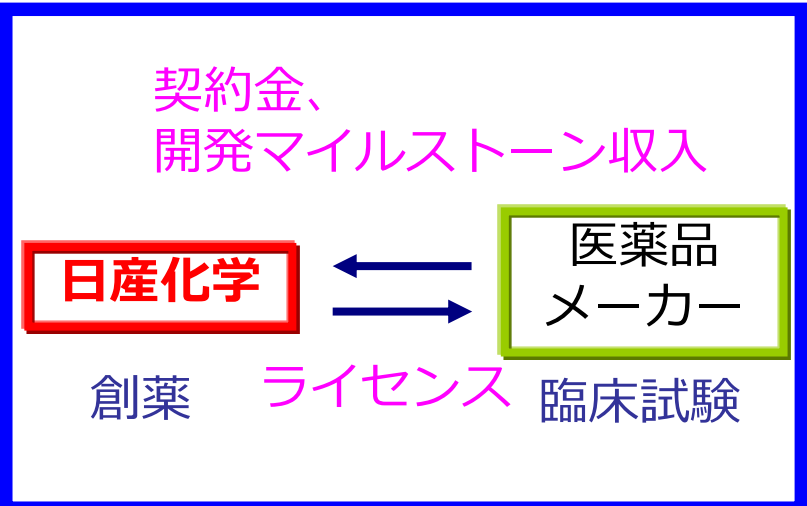


医薬品セグメント② ビジネスモデル

- ◆ 創薬、原薬製造に特化
- ◆ 販売部門を有さないユニークな医家向けビジネスモデル

医薬品事業ビジネスモデル

上市前 → 上市後



医薬品セグメント③ リバロ

◆リバロ

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績
国内末端売上高（薬価ベース、億円）	526	345	297	239	210	167	143
当社原薬売上高（国内外合計、億円）	102	69	58	52	48	43	40
当社原薬売上高 前年同期比成長率	-2%	-32%	-15%	-11%	-7%	-11%	-7%
(国内)	(-2%)	(-46%)	(-27%)	(-42%)	(-73%)	(-53%)	(+105%)
(輸出)	(-1%)	(+21%)	(+5%)	(+26%)	(+29%)	(-6%)	(-14%)

- ・ 高コレステロール血症治療薬で、日本では興和創薬(株)様から発売
- ・ 2013年8月 国内化合物特許満了、2020年8月 欧州市場独占期間終了
- ・ 現在26か国で販売中

医薬品セグメント④ パイプライン

開発品	作用機序	適応症候補	パートナー
NTC-801	・アセチルコリン感受性カリウム チャネル電流 (IKACH) 阻害	・不整脈 (心房細動など)	・ 帝人ファーマ、 Bristol-Myers Squibb との ライセンス契約終了 (2015/9) ・ 新たな導出先検討中 ・ AMED*革新的医療シーズ実用化研究事業に採択 (2018/9) ・ 大阪大学と医師主導治験開始に向けて準備中

*国立研究開発法人日本医療研究開発機構

<創薬研究方針>

戦略的に構築した化合物ライブラリ、精密有機合成力、独自の核酸構造、最先端の評価技術を駆使して、革新的な医薬品を創り出す

◆ 自社創薬研究

- ・ イオンチャネル評価力を基軸に循環器疾患領域と神経疾患領域に集中

◆ 戦略的共同研究

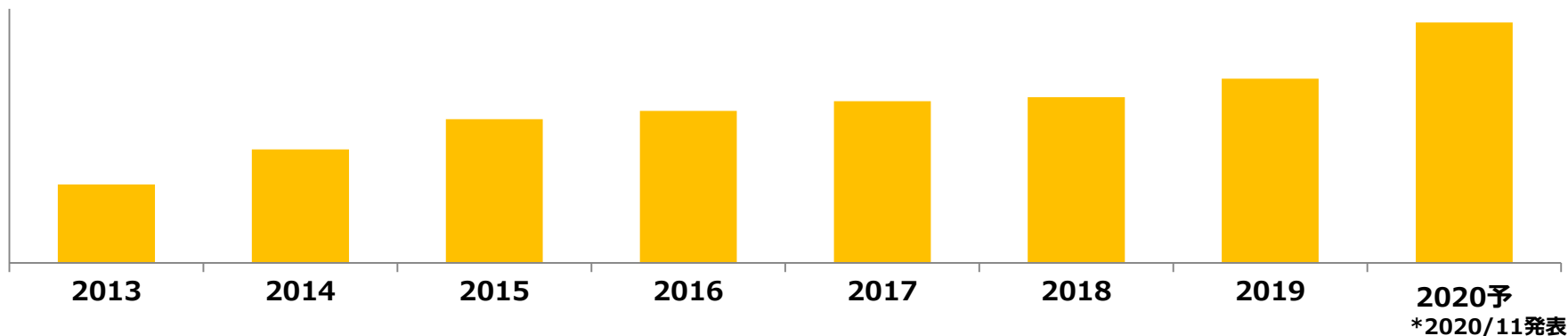
- ・ 低分子創薬および核酸創薬について、製薬企業およびバイオベンチャー数社と共同研究を実施中

医薬品セグメント⑤ ファインテック

◆2本の柱

- ・ 前臨床から商業生産まで、新薬の原薬・中間体製造プロセス研究を受託
(医薬品技術開発型受託事業)
- ・ 高活性・高付加価値ジェネリック原薬を中心として、新規案件獲得に注力
2016年～マキサカルシトール（角化治療薬、二次性副甲状腺機能亢進症）
2017年～エルデカルシトール（骨粗しょう症治療薬）

◆ファインテック売上高推移



セグメント別売上高、営業利益推移⁽¹⁾⁽²⁾

<売上高>

(億円)

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
化学	369	345	355	343	343	348	349	357	343
機能	340	374	428	494	518	528	588	630	655
農化	338	354	391	457	475	520	581	627	640
医薬	100	127	116	88	87	80	75	70	70
卸売	448	466	507	544	556	552	595	679	679
他	200	212	214	209	209	240	215	246	224
調整	-309	-340	-374	-423	-419	-465	-469	-560	-543
合計	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068

<営業利益>

化学	16	19	19	19	39	38	34	30	13
機能	48	72	88	120	120	125	142	150	170
農化	44	50	62	92	108	132	164	184	193
医薬	46	52	49	23	20	17	12	10	9
卸売	13	14	15	17	18	17	18	20	21
他	3	7	8	6	5	10	6	9	7
調整	-15	-19	-19	-24	-24	-25	-26	-32	-27
合計	155	195	222	253	286	314	350	371	386

(1)2011：旧セグメント, 2012-：新セグメント

(2)売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

セグメント別売上高営業利益率推移

<売上高営業利益率>

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
化学	4.3%	5.5%	5.4%	5.5%	11.4%	10.9%	9.7%	8.4%	3.8%
機能	14.1%	19.3%	20.6%	24.3%	23.2%	23.7%	24.1%	23.8%	26.0%
農化	13.0%	14.1%	15.9%	20.1%	22.7%	25.4%	28.2%	29.3%	30.2%
医薬	46.0%	40.9%	42.2%	26.1%	23.0%	21.3%	16.0%	14.3%	12.9%
卸売	2.9%	3.0%	3.0%	3.1%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	3.1%
他	1.5%	3.3%	3.7%	2.9%	2.4%	4.2%	2.8%	3.7%	3.1%
合計	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%

中期経営計画 Vista2021 Stage II (2019-2021)

2030年の企業像へ至る通過点として、2021年の
あるべき姿を明確に示し、成長の道標とする

2021年のあるべき姿

機能性材料および農業化学品事業が業績を牽引し、
次の成長エンジンが生まれている

挑戦を楽しむ組織が実現し、多様な人材が目標に向かって
能力を発揮している

事業活動を通じて、社会の持続的な発展に貢献している

中期経営計画 Vista2021 Stage II (2019-2021)

経営指標

	2018 実績	2019 実績	2020 予想 <small>2020/11発表</small>	2021 目標
売上高営業利益率	18.1%	18.7%	19.2%	18%以上
ROE	16.6%	16.9%	16.6%	16%以上
配当性向	41.5%	42.8%	45.1%	19年度 42.5% 20年度以降 45%
株主総還元性向	72.0%	75.1%	76.7%	19年度 72.5% 20年度以降 75%

中期経営計画 Vista2021 Stage II (2019-2021)

数値目標

単位：億円

	2018 実績 ①	2019 実績	2020 予想 2020/11発表	2021 計画 ②	21年 - 18年 ②-①	2021 Stage I ③	前中計 比 ②-③
売上高	2,049	2,068	2,095	2,350	+301	2,500	-150
営業利益	371	386	403	430	+59	400	+30
経常利益	391	400	411	440	+49	408	+32
純利益 ※	294	308	314	330	+36	310	+20

※純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

EPS(円/株)	197.67	210.09	217.56	230.00	+32.33	-	-
ROE	16.6%	16.9%	16.6%	16%以上	-	14%以上	-
為替(円/ドル)	111	109	上107 下105	110	-1	115	-5

中期経営計画 Vista2021 Stage II (2019-2021)

セグメント別営業利益

単位：億円

	2018 実績 ①	2019 実績	2020 予想 2020/11発表	2021 計画 ②	21年 - 18年 ②-①	2021 Stage I ③	前中計比 ②-③
化学品	30	13	12	51	+21	45	+6
機能性材料	150	170	206	173	+23	184	-11
農業化学品	184	193	187	211	+27	167	+44
医薬品	10	9	6	7	-3	24	-17
その他*	-3	1	-8	-12	-9	-20	+8
合計	371	386	403	430	+59	400	+30

* その他: 卸売、その他、調整

主要新製品 2021年計画

売上高規模(1)	3億円未満	3億円以上6億円未満	(1)サンプル出荷に伴う試験費控除も含む 6億円以上	合計
化学品	ビーナスオイルクリーン (FC)	デピック新製品 (FC)		6億円
機能性材料	<ul style="list-style-type: none"> 位相差フィルム用配向材 (DP) 新規高屈(IM用フィルム) (無機) 	<ul style="list-style-type: none"> 調光フィルム材料(DP) 撥液バンク材料(DP) EUV下層膜 (半導体) オルガノゾル(絶縁CTE) (無機) 	<ul style="list-style-type: none"> TV向け配向材(DP) ハイパーテック (高屈折率)(DP) 三次元実装材(半導体) モノマーゾル (3Dプリンティング)(無機) オイル&ガス材料(無機) CMOSイメージセンサー材料(半導体) 有機EL用ホール注入材(DP) 	79億円
農業化学品	<ul style="list-style-type: none"> ネクスター (導入剤) クラール (自社開発) アレイル (自社開発) 		<ul style="list-style-type: none"> グレーシア(自社開発) ラウンドアップALシリーズ トランスフォーム™/エクシード™/ピレスコ™ (導入剤) 	78億円
医薬品	<ul style="list-style-type: none"> 新規ジェネリック (FT) 新規ジェネリック (FT) 		<ul style="list-style-type: none"> エルデカルシトール (FT) ペプチド受託(FT) 	27億円
新分野	<ul style="list-style-type: none"> 機能性化粧品材料 細胞培養培地材料 	<ul style="list-style-type: none"> 生体適合材料 二次電池材料 		6億円

合計 196億円

成長の源泉

ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み

①外部からの評価・ESGインデックス等

◆ESGインデックス等（2020年度）

- 健康経営優良法人ホワイト500に認定（4年連続）
- ESGインデックスの構成銘柄に選定
 - ・ S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数（2年連続）
 - ・ FTSE4Good Index Series
 - ・ FTSE Blossom Japan Index
 - ・ Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index（3年連続）
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明
- 「統合レポート2020」を発行
 - https://www.nissanchem.co.jp/ir_info/archive/ar/ar2020.pdf
- CDP 水セキュリティ「Aリスト」選定（2年連続）

◆ガバナンス

- 2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置（取締役会の任意の諮問機関）
- 2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入（株式給付信託）
社外取締役を1名増員し、3名体制へ（取締役は計9名）

ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み

②温室効果ガス (GHG) 排出削減長期目標

2021年1月 温室効果ガス (GHG) 排出削減長期目標を設定
中期経営計画Vista2021(2016-2021年度) 目標:

2021年度までに2011年度比 20%削減



2019年度 2011年度比 27%削減を達成

新長期目標:2030年度までに2018年度比 30%削減

温室効果ガス (GHG) 排出量 (CO2換算、千トン、単体ベース)

年度	2011	2018	2019	2021	2030
中期経営計画Vista2021	-	-	-	359	-
実績	448	363	327	-	-
新長期目標	-	-	-	-	254
大手総合化学5社平均	-	-	5,069	-	-







ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み マテリアリティ (重要課題)

(統合レポート2020 P27-28参照)

マテリアリティ	項目	当社の主な取り組み
<p>■ 人々の豊かな暮らしに役立つ 新たな価値の提供</p> 	健康問題への貢献	医療ニーズに対応する医薬品、 先進医療に貢献する生体材料の創出
	環境配慮型製品・ サービスの提供	ディーゼル車の排出ガス浄化用の高品位尿素の販売、 未利用エネルギーの活用に資する環境発電材料の開発
	生活の質の向上への貢献	ペット向け動物用医薬品原薬の探索と提供、 飲料水用殺菌消毒剤の販売
	スマート社会への貢献	IoTに必要なセンサー材料、データ通信の大容量・高速化 に寄与する配線材料の開発
	食糧問題への貢献	農作物の収量拡大と農業の省力化につながる農薬の供給、 動物用医薬品原薬の家畜への展開

ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み マテリアリティ (重要課題)

(統合レポート2020 P27-28参照)

2021年度目標(KPI)	2019年度の実績	SDGsとの関連
開発候補剤のライセンスアウト	抗不整脈薬の医師主導治験開始 新たな開発候補品創出に向け研究実施中	
新規医療材料の上市	FCeM [®] Cellhesion [®] 用自動培養装置試作品完成 試験研究用途prevelex [®] 塗布容器を出荷開始	
新たな環境配慮型製品の上市	—	 
飲料水用殺菌消毒剤による貢献 2,500千人/年	900千人/年 (2019年度 出荷停滞)	 
センサー、実装関連材の採用拡大ならびに 光通信材の採用・上市	CMOSセンサー材料、実装関連材料は2022年 から本格販売の見通し、また光配線材料なども開 発進捗中	 
農業化学品事業部売上高18年度比10%増	18年度比2.1%増 (19年度売上 64,039百万円)	



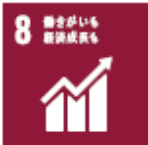







ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み マテリアリティ (重要課題)

(統合レポート2020 P27-28参照)

マテリアリティ	項目	当社の主な取り組み
<p>自社の事業基盤の強化</p> 	研究開発力の強化	コア技術の深化、オープンイノベーションの推進、AIなど新技術の導入
	製品の品質向上	品質方針に基づく継続的なマネジメントシステムと業務の改善
	従業員の健康維持向上	健康推進委員会による健康推進施策の検討、メンタルヘルスチェック
	働きやすい職場づくり	ワークライフバランスの推進、ハラスメント対策、育児・介護支援
	人材の確保・育成	教育・能力研修の提供、海外留学制度の導入
	ダイバーシティの推進	女性の活躍推進、外国人留学生の採用、障がい者雇用の推進
	公正な取引の推進	下請法やインサイダー取引規制に関する社内教育の実施
	CSR調達の推進	取引先へのCSRに関する質問票調査、監査の実施
	気候変動への適応	自然災害による工場の操業不能に備えたBCPの策定


ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み マテリアリティ (重要課題)

(統合レポート2020 P27-28参照)

2021年度目標(KPI)	2019年度の実績	SDGsとの関連
21年度までの3年間における特許出願数1350件	426件出願 (2018年度 454件出願)	         
21年度までの3年間における製造委託先への監査実施率80%	46%	
ホワイト500の継続取得	2016年度より4年連続で取得	
年次有給休暇取得率80%以上	73.2%	
一人当たり研修時間 2017年度比10%増	10時間 (2017年度 11時間)	
総合職に占める女性社員比率10%	9.6%	
21年度までに、本体全箇所での法務相談会実施	5% (2019年 0回)	
CSRアンケート調査カバー率90%(金額ベース)	69%	
経常利益50%を占める製品のBCP策定	経常利益 38%を占める製品のBCP策定	

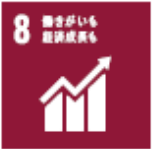




ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み マテリアリティ (重要課題)

(統合レポート2020 P27-28参照)

マテリアリティ	項目	当社の主な取り組み
<p>レスポンシブル・ケア活動の 継続的強化</p> 	気候変動の緩和	設備改善による省エネルギー化、 GHG 排出量削減につながる燃料転換
	労働安全衛生の推進	労働安全マネジメントシステムの確立、 安全への設備投資の実行
	生物多様性への取り組み	バイオパークの運営、 NPO 法人「黒浜沼周辺の自然を大切にする会」の支援
	化学物質の管理	化学製品の全ライフサイクルにおける 人の健康や環境への悪影響の最小化
	産業廃棄物・汚染物質の 排出削減	廃棄物の再利用や再資源化、 中間処理方法の変更による最終処分量の削減

ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み マテリアリティ (重要課題)

(統合レポート2020 P27-28参照)

2021年度目標(KPI)	2019年度の実績	SDGsとの関連
GHG排出量 13年度比△20% エネルギー原単位 13年度比20%改善	GHG排出量 13年度比△29% エネルギー原単位 13年度比△21%	    
休業災害ゼロ	休業災害2件	
本社・工場・研究所が所在する すべての都道府県での取り組み100%	83%	
全製造量の90%を占める製品の 化学物質安全性要約書作成	74%	
リサイクル率99.5%以上 排ガス(SO _x + NO _x)排出量13年度比 △75%	リサイクル率97.0% 排ガス排出量13年度比 △50%	

(参考) 主要製品、用途①

セグメント	製品名	主用途
化学品	<p>◆ファインケミカル</p> <p>テック メラミンアムレート ハライト</p> <p>◆基礎化学品</p> <p>メラミン 尿素、アムブルー 高純度硫酸 アンモニア、硫酸、硝酸</p>	<p>エポキシ樹脂： ソルダレジストインク材料、LED封止材材料、粉体塗料硬化剤 難燃剤</p> <p>塩素化イソシアヌル酸： プール、浄化槽用殺菌消毒剤</p> <p>合板用接着剤 アムブルー（ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水） 半導体用洗浄剤</p>
機能性	<p>◆電子材料</p> <p>カンバー ARC® (KrF、ArF) OptiStack® (多層材料) OPTIFOCUS イルソス</p> <p>◆無機コロイド材料</p> <p>スノーテックス オルガノゾル・モノゾル アルミナゾル サニコイド セルナックス オイル&ガス材料</p>	<p>液晶配向材用ホリミド 半導体用反射防止コーティング材、半導体用多層プロセス材料 (Si-HM、SOC) *ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標 イメージセンサー用マイクロレンズ材料 有機EL用塗布型ホール注入材</p> <p>コロイダルシリカ： シリコンウェハー・アルミ、ガラスハードディスク研磨剤、 特殊鋼板、脱硝触媒、電子機器、紙・繊維表面処理</p> <p>有機溶媒・モノマー分散シリカゾル： フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤 自動車用触媒、電子機器 眼鏡レンズ用高屈折率ゾル フィルム用帯電防止 シールオイル・ガス探掘効率向上材</p>

(参考) 主要製品、用途②

セグメント	製品名	主用途
農化	<p>◆ 除草剤</p> <p>外カ パ°-ミット シリウス ラウト°アップ° アルテア</p> <p>◆ 殺虫剤</p> <p>サンマイト、マイトコーネ、スターマイト グレーシア</p> <p>◆ 殺菌剤</p> <p>パ°ルサー、イカカ°、グレートム (チフルザ°ミト°) ライメイ クインテック (キノキシフェン) ダイセン(マンゼブ°)</p> <p>◆ 動物薬</p> <p>フルララネ</p>	<p>大豆、なたね、てんさい とうもろこし、さとうきび、米 米 非選択性茎葉処理除草剤： 非農耕地、果樹園 米</p> <p>果樹、かんきつ、茶、野菜 野菜、茶</p> <p>芝、稲、ばれいしょ</p> <p>野菜 果樹、野菜 果樹、野菜</p> <p>ハ°ット用外部寄生虫薬ブラハ°クト、鶏用ワケモ駆除剤EXZOLT原薬</p>
医薬	<p>リハ°ロ ファインテック</p>	<p>高コレステロール血症治療薬 医薬品研究開発参加型事業</p>
卸売	日星産業	
その他	物流、緑化、エンジニアリング、肥料	

(参考) 当社IRに対する外部評価

- ◆証券アナリスト協会「2020年度ディスクロージャー優良企業」
化学・繊維 第1位 (初選定)
- ◆日興IR「2020年度ホームページ充実度ランキング」
最優秀サイト受賞
- ◆大和IR「2020年インターネットIR表彰」
優良賞受賞
- ◆モーニングスター「Gomez IRサイトランキング2020」
銀賞受賞

ディスクロージャー
2020年度 優良企業



SAAJ 公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan



免責事項

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。



Nissan Chemical
CORPORATION